

令和2年度

事業実績報告書

学校法人 佐保会学園

奈良佐保短期大学

附属生駒幼稚園

認定こども園附属河内長野幼稚園

附属倉敷幼稚園

令和2年度に係る事業の実績報告

奈良市鹿野園町 806
学校法人 佐保会 学園

I 法人の概要等	3
1. 法人の目的	3
2. 既設校の内容	3
3. 法人等の沿革	3
4. 歴代理事長、学長及び園長	5
(1) 理事長	5
(2) 学長	5
(3) 園長	5
5. 奈良佐保短期大学名誉教授	6
6. 運営・組織機構（主たる業務・分掌を含む）	6 (61)
7. 役員	6
8. 理事会、評議員会の開催状況	7
(1) 理事会	7
(令和元年度)	7
(令和2年度)	7
(2) 評議員会	8
(令和元年度)	8
(令和2年度)	9
9. 役職員	9
(1) 法人本部	9
(2) 奈良佐保短期大学	9
(3) 附属幼稚園	10
10. 職員数	10
・教員等の現員	10
11. 附属図書館	11
(1) 図書及び雑誌	11
(2) サービス状況	11
12. 外部資金	11
科学研究費補助金	11
II 財務の概要	11
1. 監事の監査状況と監査内容	11
2. 公認会計士の監査状況	12
3. 貸借対照表の要約	13
4. 財産目録の要約	13
5. 資金収支・事業活動収支の要約	14
(1) 資金収支決算	14
(2) 事業活動収支決算	15
(3) 教育研究経費比率	16
6. 土地建物	16

Ⅲ 事業の概要	17
1・奈良佐保短期大学	17
2・附属生駒幼稚園	50
3・認定こども園附属河内長野幼稚園	55
4・附属倉敷幼稚園	58

学校法人 佐保会学園 令和2年度に係る事業の実績報告

I 法人の概要等

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、教養高く、かつ、専門的、職業的能力を有する優れた人材を育成することを目的とする。

2. 既設校の内容

法人の名称：学校法人佐保会学園		事務所の所在地：奈良市鹿野園町806		
学校名	学科・課程名（修業年限）	開設年度	入学定員 (人)	収容定員 (人)
奈良佐保短期大学	生活未来科（2年） 生活福祉コース 食物栄養コース ビジネスキャリアコース	平21	80	160
	地域こども学科（2年） こども教育コース こども保育コース	平22	100	200
	日本語教育別科（1年）	平22	20	20
附属生駒幼稚園	} 5歳児（1年保育） 4歳児（2年保育） 3歳児（3年保育）	昭52		220
認定こども園		昭49		60
附属河内長野幼稚園		昭51		115
附属倉敷幼稚園				

所在地	奈良佐保短期大学	奈良市鹿野園町 806
	附属生駒幼稚園	生駒市鹿ノ台南2-12
	認定こども園	
	附属河内長野幼稚園	河内長野市大矢船中町10-1
	附属倉敷幼稚園	倉敷市徳芳869-116

3. 法人等の沿革

昭和6年	4月1日	奈良女子高等師範学校（現・奈良女子大学）同窓会佐保会によって各種学校佐保女学院（奈良佐保短期大学の前身）が開設される
昭和40年	1月25日	学校法人佐保会学園設立の認可を受ける
昭和40年	1月25日	佐保女学院短期大学設置の認可を受ける
昭和40年	4月1日	同短期大学開設（家政科入学定員100名）する
昭和40年	12月3日	1号館 竣工
昭和42年	3月21日	2号館 竣工
昭和42年	3月23日	栄養士養成課程（入学定員50名）設置の認可を受ける
昭和42年	4月1日	家政科を家政専攻（入学定員100名）と食物栄養専攻（入学定員50名）に変更する
昭和42年	4月1日	栄養士養成課程を開設する
昭和43年	7月29日	佐保女学院短期大学を奈良佐保女学院短期大学と校名変更の認可を受ける

昭和48年	2月	4日	初等教育学科の設置の認可を受ける（入学定員50名）
昭和48年	2月	4日	家政科を家政学科と学科名の変更の認可を受ける
昭和48年	2月	4日	家政学科の入学定員を家政学専攻50名、食物栄養専攻50名計100名に変更の認可を受ける
昭和48年	3月	31日	3号館、4号館 竣工
昭和48年	4月	1日	初等教育学科（入学定員50名）を開設する
昭和49年	3月	8日	学校法人佐保学園河内長野佐保幼稚園設置認可を受ける（大阪府）
昭和49年	4月	1日	同幼稚園開設（入園定員120名）
昭和51年	2月	12日	初等教育学科の入学定員を100名に増員の認可を受ける
昭和51年	2月	12日	家政学科の入学定員を100名に増員の認可を受ける
昭和51年	3月	25日	5号館 竣工
昭和51年	12月	11日	学校法人佐保学園倉敷佐保幼稚園設置認可を受ける（岡山県）
昭和51年	4月	1日	同幼稚園開設（入園定員80名）
昭和52年	4月	12日	学校法人佐保学園生駒佐保幼稚園設置認可を受ける（奈良県）
昭和52年	9月	1日	同幼稚園開設（入園定員200名）
昭和54年	4月	30日	体育館 竣工
昭和58年	3月	31日	奈良県認可の学校法人佐保学園に河内長野佐保幼稚園及び倉敷佐保幼稚園を吸収合併の認可を受ける
昭和60年	12月	25日	家政学科家政専攻の入学定員を100名に、初等教育学科の入学定員を150名に増加認可を受ける
昭和60年	12月	25日	家政学科家政専攻の入学定員を100名の臨時増員の認可を受ける（期間 昭和61年4月1日～平成12年3月31日）
昭和63年	1月	29日	家政学科を生活科学科と学科名を変更する 家政専攻を生活科学専攻と専攻名の変更の認可を受ける
平成 2年	3月	31日	6号館 竣工
平成 4年	8月	31日	学校法人佐保会学園が学校法人佐保学園を合併する認可を受ける
平成 5年	4月	1日	生駒佐保幼稚園、河内長野佐保幼稚園及び倉敷佐保幼稚園をそれぞれ奈良佐保女学院短期大学附属生駒幼稚園、同附属河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園とする
平成11年	4月	1日	生活科学科生活科学専攻を分離し、生活福祉専攻（介護福祉養成施設等指定）を設置する生活科学専攻の恒常的入学定員を40名減じ、生活福祉専攻の入学定員を60名とする
平成12年	3月	31日	生活科学科生活科学専攻の入学定員100名の臨時増員を廃止減員する
平成13年	4月	1日	奈良佐保女学院短期大学を奈良佐保短期大学に、奈良佐保女学院短期大学附属生駒幼稚園、同河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園を奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園、同河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園に名称変更を行うとともに、奈良佐保短期大学にあっては受入学生を男女共学とする
平成13年	4月	1日	初等教育学科を幼児教育科と学科名を変更する
平成14年	4月	1日	生活科学科生活科学専攻を廃止する
平成15年	4月	1日	専攻科（福祉専攻：定員30名）を設置する
平成16年	11月	8日	自己点検評価室を設置する
平成17年	4月	1日	情報メディアセンターを設置する
平成19年	9月	28日	生活科学科生活福祉専攻入学定員を10名減じ50名とし、幼児教育科入学定員を130名に増加認可（平成20年度～）を受ける
平成19年	10月	17日	附属倉敷幼稚園の入園定員を25名増し105名に増加認可（平成20年度～）を受ける

平成20年	4月	1日	生涯学習教育センターを設置する
平成21年	4月	1日	生活科学科を生活未来科と学科名を変更する 生活未来科は専攻課程を廃止し、入学定員を100名とする。
平成22年	3月	10日	中華人民共和国西安外国語大学高職部との連携・協力に関する包括協定書締結
平成22年	4月	1日	幼児教育科を地域こども学科と学科名を変更し、入学定員を100名とする 日本語教育別科（定員20名）を設置する
平成23年	3月	31日	7号館 竣工
平成23年	4月	1日	キャリア支援センターを設置する
平成23年	9月		中華人民共和国大連大学との交流に関する協定書締結
平成24年	4月	1日	地域共生センターを設置する（生涯学習教育センターを廃止する）
平成27年	4月	1日	地域・国際連携センターを設置する（地域共生センターを廃止する。） 附属倉敷幼稚園の入園定員を10名増し115名に増加認可を受ける 附属河内長野幼稚園を認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園（利用定員60名） としての認可を受ける
平成28年	3月	31日	専攻科（福祉専攻：定員30名）を廃止する
令和2年	4月	1日	生活未来科入学定員を20名減じ80名とする

4. 歴代理事長、学長及び園長

(1) 理事長

	長谷川 千 鶴	昭和40年	4月	1日	～平成13年	3月	31日
	梶 田 武 俊	平成13年	4月	1日	～平成17年	7月	31日
	丹 羽 雅 子	平成17年	8月	1日	～平成18年	11月	11日
(代行)	生 駒 節 子	平成18年	11月	12日	～平成18年	12月	16日
	奥 村 晶 子	平成18年	12月	17日	～平成25年	7月	31日
(代行)	大 石 正	平成19年	10月	7日	～平成19年	10月	22日
(代行)	馬 越 かよ子	平成25年	8月	1日	～平成25年	8月	10日
	榎 和 子	平成25年	8月	11日	～平成29年	7月	31日
	馬 越 かよ子	平成29年	8月	1日	～（現在に至る）		

(2) 学長

(昭和40年4月から平成13年3月まで奈良佐保女学院短期大学)

	波多腰 ヤ ス	昭和40年	4月	1日	～昭和47年	6月	8日
(代行)	近 末 貢	昭和47年	6月	8日	～昭和48年	7月	31日
	宮 本 富 美	昭和48年	8月	1日	～平成6年	6月	30日
	菅 沼 美 子	平成6年	7月	1日	～平成12年	3月	31日
(代行)	梶 田 武 俊	平成11年	10月	1日	～平成12年	3月	31日
	梶 田 武 俊	平成12年	4月	1日	～平成14年	3月	31日

(平成13年4月から奈良佐保短期大学)

	梶 田 武 俊	平成14年	4月	1日	～平成18年	3月	31日
	大 石 正	平成18年	4月	1日	～平成24年	3月	31日
	馬 越 かよ子	平成24年	4月	1日	～（現在に至る）		

(3) 園長

附属生駒幼稚園

(昭和52年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 生駒佐保幼稚園)

有馬 タツエ 昭和51年 4月 1日～平成 4年 3月31日
 藤井 智加子 平成 4年 4月 1日～平成 5年 3月31日
 (平成5年4月から奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園)
 藤井 智加子 平成 5年 4月 1日～平成24年 3月31日
 奥畑 栄一 平成24年 4月 1日～平成27年 3月31日
 片岡 三和 平成27年 4月 1日～(現在に至る)

認定こども園附属河内長野幼稚園

(昭和49年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 河内長野佐保幼稚園)
 村上 尉代 昭和49年 4月 1日～昭和50年 3月31日
 今市 良子 昭和50年 4月 1日～平成 5年3月31日
 (平成5年4月から奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園)
 今市 良子 平成 5年 4月 1日～平成14年3月31日
 中村 裕子 平成14年 4月 1日～平成27年3月31日
 (平成27年4月から認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園)
 中村 裕子 平成27年 4月 1日～(現在に至る)

附属倉敷幼稚園

(昭和51年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 倉敷佐保幼稚園)
 中村 淑 昭和51年 4月 1日～昭和53年 9月14日
 長坂 淳子 昭和53年 9月15日～昭和61年 8月31日
 本田 慧 昭和61年 9月 1日～平成 5年 3月31日
 (平成5年4月から奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園)
 本田 慧 平成 5年 4月 1日～平成 7年 8月31日
 竹内 一二美 平成 7年 9月 1日～平成10年 3月31日
 本田 慧 平成10年 4月 1日～平成15年 7月31日
 橋爪 操 平成15年 8月 1日～(現在に至る)

5. 奈良佐保短期大学名誉教授

菅沼 美子 栄 利秋 戸口 勉 松井 静子 梶田 武俊 南園 節教
 大石 正 矢和 多多姫子 中村 妙子

6. 運営・組織機構 (主たる業務・分掌を含む)

(別記 61頁)

7. 役員

(令和2年5月1日現在)

理事長	馬 越 かよ子					
理事	池内 ますみ	榎 和子	久米 健次	倉田 清	栗岡 隆顕	
	疋田 洋子	平井 タカネ	本田 元子	馬越 かよ子	松尾 欣枝	
	森 永 夕美	勝田 麻津子				
監事	奥村 晶子	山川 明子				
評議員	榎 和子	池内 ますみ	岡田 伸子	片岡 三和	川崎 和子	
	久米 健次	倉田 清	栗岡 隆顕	久留島 涼子	西藤 栄子	
	高橋 世知子	中村 裕子	野口 哲子	橋爪 操	疋田 洋子	
	平井 タカネ	福田 満代	本田 元子	馬越 かよ子	松尾 欣枝	

8. 理事会、評議員会の開催状況

(1) 理事会

開催日	審議事項
(令和元年度)	
令和元年5月25日	平成30年度事業実績報告について 平成30年度決算について 奈良佐保短期大学教員人事について 学校法人佐保会学園法人本部長の選任について 学校法人運営調査委員による調査結果の改善状況について（要旨）
令和元年7月20日	奈良佐保短期大学学則の一部改正について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の新制度への移行等について 学校法人佐保会学園個人情報保護規程の制定について 奈良佐保短期大学入学者選抜規程の制定について 奈良佐保短期大学情報システム運用基本規程の制定について 奈良佐保短期大学教職員用パソコンの更改及び関連事務機器導入について
令和元年10月27日	学校法人佐保会学園資産運用規程の制定について 学校法人佐保会学園特定個人情報取扱規程について 1) 学校法人佐保会学園特定個人情報取扱規程の制定について 2) 特定個人情報等の適正な取扱いに関する基本方針について 奈良佐保短期大学6号館空調機入替工事に係る業者決定について
令和元年12月14日	学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 奈良佐保短期大学教員人事について 奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について 高等教育の修学支援新制度について 学校法人佐保会学園の資産運用について
令和2年2月22日	2019年度補正収支予算について 奈良佐保短期大学教員人事について
令和2年3月21日	2020年度事業計画について 2020年度予算について 理事及び評議員の交代について 奈良佐保短期大学教員人事について 学校法人佐保会学園情報公開規程の制定について 学校法人佐保会学園公益通報等に関する規程の制定について
(令和2年度)	
令和2年5月23日	令和元年度（2019年度）事業実績報告について 令和元年度（2019年度）決算について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の新制度への移行について 認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園則（運営規程）の一部改正について 奈良佐保短期大学名誉教授称号授与について

	奈良佐保短期大学教員人事について 大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保に係る補助金の申請について
令和2年7月18日	奈良佐保短期大学学長選考について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園長選考について 「学校法人向け役員賠償責任保険」への加入について
令和2年9月19日	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園「子どもの家」について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 学校法人佐保会学園所有地の一部売買契約について
令和2年10月24日	奈良佐保短期大学教員人事について 学校法人佐保会学園理事・監事並びに評議員の交代について
令和2年11月21日	奈良佐保短期大学学長候補適任者の選考について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の新制度への移行について 奈良佐保短期大学学長候補適任者の選考について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園長候補者の選考について PCB廃棄物処理について 学生支援情報システムの導入について
令和3年1月30日	奈良佐保短期大学学長候補適任者の選考について
令和3年3月20日	令和2年度補正予算について 令和3年度事業計画について 令和3年度当初予算について 理事及び評議員の交代について 理事長職務の代理者の選任について 奈良佐保短期大学教員人事について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の園則改正について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の運営規程の制定について 奈良佐保短期大学奨学金（長期貸付金）債権の放棄について

(2) 評議員会

開催日	諮問事項
(令和元年度)	
令和元年5月25日	平成30年度事業実績報告について 平成30年度決算について 学校法人佐保会学園法人本部長の選任について 学校法人運営調査委員による調査結果の改善状況について
令和元年7月20日	奈良佐保短期大学学則の一部改正について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の新制度への移行等について
令和元年12月14日	学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について 奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について 高等教育の修学支援新制度について 学校法人佐保会学園の資産運用について
令和2年2月22日	2019年度補正収支予算について
令和2年3月21日	2020年度事業計画について 2020年度予算について

理事及び評議員の交代について

(令和2年度)

令和2年5月23日	令和元年度(2019年度)事業実績報告について 令和元年度(2019年度)決算について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の新制度への移行について
令和2年7月18日	奈良佐保短期大学学長選考について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園長選考について 「学校法人向け役員賠償責任保険」への加入について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園「子どもの家」について
令和2年10月24日	学校法人佐保会学園理事、監事並びに評議員の交代について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の新制度への移行について
令和3年1月30日	奈良佐保短期大学学長候補者の選考について 令和2年度補正予算について 奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について
令和3年3月20日	令和3年度事業計画について 令和3年度当初予算について 理事及び評議員の交代について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の園則改正について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の運営規程の制定について 奈良佐保短期大学奨学金(長期貸付金)債権の放棄について

9. 役職員

(令和2年5月1日現在)

(1) 法人本部

理事長	馬 越 かよ子
法人本部長	倉 田 清
事務室長	上 山 潔

(2) 奈良佐保短期大学

学 長	馬 越 かよ子
副学長	池 内 ますみ
生活未来科長	森 永 夕 美
生活福祉コース長	武 田 千 幸
食物栄養コース長	島 村 知 歩
ビジネス・キャリアコース長	戸 田 信 聡
地域こども学科長	勝 田 麻津子
こども保育コース長	吉 田 直 子
こども教育コース長	加 藤 慎 一
日本語教育別科長	宮 川 久 美
事務局 長	倉 田 清
総 務 部 長	藤 本 友 宏
教育支援センター長(併)	勝 田 麻津子
入試・広報センター長	木 田 一 芳
副センター長	杉 原 麻 起
学生・キャリア支援センター長	西 岡 由 郎

副センター長	俵本谷 仁 美
アドバイザー	東 崎 元 宏
附属図書館長(併)	池 内 ますみ
情報メディアセンター長	阪 口 弘
副センター長(併)	中 田 奈 月
I R推進室長(併)	中 田 奈 月
地域・国際連携センター長(併)	杉 原 麻 起
副センター長(併)	木 田 一 芳
自己点検評価室長(併)	池 内 ますみ
副室長(併)	勝 田 麻 津 子

(3) 附属幼稚園

生駒幼稚園長	片 岡 三 和
主 任	貞 佳 子
副主任	赤 枝 幸 恵
認定こども園河内長野幼稚園長	中 村 裕 子
倉敷幼稚園長	橋 爪 操
副園長	志 部 恭 子
主 任	山 地 麻 美

10. 職員数

・教員等の現員

(各年5月1日現在) 単位：人

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	備 考
短期大学	48 (51)	46 (53)	47 (50)	44 (50)	49 (49)	
学長	1	1	1	1	1	
副学長	1	1	1	1	1	
教授	12	10	10	12	10	
准教授	5	3	2	1	4	
講師	6	9	11	9	12	
助教・助手	4	3	3	4	4	
その他の職員	19	19	19	16	17	
幼稚園	33 (7)	31 (7)	31 (6)	31 (9)	29 (10)	
生駒幼稚園	17 (1)	16 (2)	15 (1)	15 (3)	15 (4)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	15 (1)	14 (2)	13 (1)	13 (3)	13 (4)	
その他の職員	1	1	1	1	1	
河内長野幼稚園	9 (3)	9 (2)	9 (2)	9 (3)	9 (3)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	8 (3)	8 (2)	8 (2)	8 (3)	8 (3)	
その他の職員	0	0	0	0	0	
倉敷幼稚園	7 (3)	6 (3)	7 (3)	7 (3)	10 (3)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	5 (3)	4 (3)	5 (3)	5 (3)	7 (3)	
その他の職員	1	1	1	1	2	

注：()内は非常勤を示す

11. 附属図書館

(1) 図書及び雑誌

(令和2年度末現在)

区分	内国書	外国書	計	備考
一般図書	19,072冊	535冊	19,607冊	
専門図書	38,301冊	1,040冊	39,341冊	
学術雑誌・その他	1,798冊	44冊	1,842冊	

(2) サービス状況

入館者数・貸し出し者数・冊数

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
入館者数	17,348人	14,788人	15,091人	15,816人	10,351人
貸し出し者数	1,960人	1,776人	1,673人	1,689人	1,477人
貸し出し冊数	5,050冊	4,829冊	4,871冊	4,804冊	4,323冊

文献複写件数

学内・学外からの受付件数

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
学内からの受付	112件	53件	72件	292件	83件
学外からの受付	2件	1件	0件	1件	2件
外部へ依頼	30件	104件	10件	7件	4件

図書館間相互貸借

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
貸出	4件	0件	0件	1件	2件
借受	24件	3件	1件	3件	2件

12. 外部資金

科学研究費補助金

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
基盤研究	— 件	— 件	— 件	— 件	1件
(C)	— 円	— 円	— 円	— 円	1,700,000円
若手研究	1件	— 件	— 件	1件	1件
(B)	600,000円	— 円	— 円	800,000円	900,000円

II 財務の概要

1. 監事の監査状況と監査内容

2019年度決算分

財産状況の監査（決算・期中監査）

実施日 令和2年5月21日（決算・期中）

対象分野・事項

（決算関係：収支決算書に基づき元帳、証拠書類を閲覧突合しながら監査を行う）

（期中関係：学生納付金等収入金関係及び人件費関係の支出、施設関係の土地及び建物関係の監査を行う）

監査結果（指摘事項なし）

公認会計士との連携の状況

実施日 令和2年5月21日

(互いに監査結果を照合し、意見交換を行う)

結果 財産状況、理事の業務執行状況についての理事への意見具申 なし

2020年度決算分

財産状況の監査(決算・期中監査)

実施日 令和3年5月21日(決算・期中)

対象分野・事項

(決算関係:収支決算書に基づき元帳、証拠書類を閲覧突合しながら監査を行う)

(期中関係:学生納付金等収入金関係及び人件費関係の支出、施設関係の土地及び建物関係の監査を行う)

監査結果(指摘事項なし)

公認会計士との連携の状況

実施日 令和3年5月21日

(互いに監査結果を照合し、意見交換を行う)

結果 財産状況、理事の業務執行状況についての理事への意見具申 なし

2. 公認会計士の監査状況

31年	2月18日・19日	期中監査(幼稚園監査を含む)
〃	4月4日	期末監査及び現金・預金証書等実査
〃	4月25日・26日	決算監査
〃	5月20日～22日	決算監査
〃	5月29日・30日	決算監査
〃	9月2日・3日	監査計画・期中監査
〃	12月17日・18日	期中監査
2年	2月17日・18日	期中監査(幼稚園監査を含む)
〃	4月3日	期末監査及び現金・預金証書等実査
〃	5月11日・12日	決算監査
〃	5月20日・21日	決算監査
〃	5月28日・29日	決算監査
〃	9月8日・9日	監査計画・期中監査
〃	12月1日・2日	期中監査(幼稚園監査を含む)
3年	2月15日・16日	期中監査(幼稚園監査を含む)
〃	4月5日	期末監査及び現金・預金証書等実査
〃	5月19日～21日	決算監査
〃	6月3日・4日	決算監査

3. 貸借対照表の要約

資産の部

単位円

科 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
固定資産	2,158,769,909	2,125,703,161	2,092,706,486	2,037,561,889
有形固定資産	1,954,029,801	1,920,963,053	1,887,966,378	1,832,813,381
その他の固定資産	204,740,108	204,740,108	204,740,108	204,748,508
流動資産	1,121,606,318	1,129,262,317	1,095,428,631	1,084,104,029
資産の部合計	3,280,376,227	3,254,965,478	3,188,135,117	3,121,665,918

4. 財産目録の要約

単位円

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
資産総額	3,280,376,227	3,254,965,478	3,188,135,117	3,121,665,918
基本財産	2,158,769,909	2,125,703,161	2,092,706,486	2,037,561,889
運用財産	1,121,606,318	1,129,262,317	1,095,428,631	1,084,104,029
負債総額	297,224,448	317,875,116	320,212,590	305,948,625
正味財産	2,983,151,779	2,937,090,362	2,867,922,527	2,815,717,293
資 産				
基本財産				
(イ)土地	917,362,439	917,362,439	917,362,439	917,362,439
(ロ)建物	821,681,328	797,459,639	761,091,028	714,000,152
建物	720,691,435	689,204,226	658,090,188	624,172,372
建物付属設備	83,701,255	93,944,330	90,589,487	78,403,277
構築物	17,288,638	14,311,083	12,411,353	11,424,503
(ハ)図書	168,988,446	169,000,741	168,194,444	165,237,407
(ニ)教具、校具、備品 及び標本	45,941,209	37,102,644	41,299,666	35,159,431
(ホ)その他の固定資産	204,740,108	204,740,108	204,740,108	204,748,508
運用資産				
(イ)預金、現金	1,052,931,877	1,066,907,275	1,048,365,400	978,237,897
預金	1,052,386,706	1,065,978,122	1,047,490,549	977,418,398
現金	545,171	929,153	874,851	819,499
(ロ)積立金	0	0	0	0
(ハ)不動産	0	0	0	0
(ニ)貯蔵品	0	0	0	0
(ホ)未収入金	68,423,241	61,461,967	45,786,200	93,887,729
(ハ)前払金	251,200	893,075	1,277,031	11,978,403
負債				
固定負債				
(イ)退職引当金	195,549,464	193,698,940	184,491,596	177,316,346
(ロ)長期未払金	0	12,918,528	20,030,036	13,177,316
流動負債	101,677,832	111,257,648	115,690,958	115,454,963
(イ)未払金	14,648,755	28,809,471	32,142,561	26,791,852
(ロ)前受金	67,218,000	63,797,000	67,477,000	66,995,000
(ハ)預り金	19,811,077	18,651,177	16,071,397	21,668,111

5. 資金収支・事業活動収支決算の要約

(1) 資金収支決算

収入の部

単位円

科 目	29年度決算額	30年度決算額	元年度決算額	2年度決算額
学生生徒等納付金収入	354,036,533	326,856,469	289,826,547	284,279,724
手数料収入	3,350,300	3,137,150	3,118,500	2,608,900
寄付金収入	4,200,000	4,194,000	3,740,010	3,391,270
補助金収入	212,463,414	222,253,656	204,915,030	289,083,108
資産運用収入	675,843	1,247,111	1,246,846	1,754,648
資産売却収入	0	0	0	0
事業収入	53,432,062	69,911,419	89,733,153	90,272,414
雑収入	44,069,249	37,330,406	30,849,716	40,953,141
前受金収入	67,218,000	63,797,000	67,477,000	66,995,000
その他の収入	240,428,248	327,349,966	263,368,367	226,432,093
資金収入調整勘定	△161,295,162	△128,679,967	△109,583,200	△161,364,729
前年度繰越支払資金	1,192,439,669	1,052,931,877	1,066,907,275	1,048,365,400
収入の部合計	2,013,183,556	1,980,329,087	1,911,599,244	1,892,770,969

支出の部

単位円

科 目	29年度決算額	30年度決算額	元年度決算額	2年度決算額
人件費支出	474,213,808	459,072,847	455,855,971	488,985,007
教育研究経費支出	128,365,990	118,504,467	114,690,557	141,990,844
管理経費支出	65,620,854	72,516,295	68,225,070	71,459,370
施設関係支出	22,750,395	24,125,040	12,563,382	4,078,450
設備関係支出	5,800,677	5,556,755	17,473,326	10,065,421
資産運用支出	100,000,000	0	0	0
その他の支出	176,395,025	275,625,607	234,572,682	219,170,143
資金支出調整勘定	△15,060,470	△41,979,199	△40,147,144	△21,216,163
次年度繰越支払資金	1,052,932,877	1,066,907,275	1,048,365,400	978,237,897
支出の部合計	2,013,183,556	1,980,329,087	1,911,599,244	1,892,770,969

(2) 事業活動収支決算

単位円

区 分	科 目	2 年度決算額	
教育活動収支	事業活動 収入の部	学生生徒等納付金	284,279,724
		手数料	2,608,900
		寄付金	991,270
		経常費等補助金	288,678,108
		付随事業収入	90,272,414
		雑収入	40,953,141
		教育活動収入計	707,783,557
	事業活動 支出の部	人件費	481,809,757
		教育研究経費	191,024,794
		管理経費	83,360,675
教育活動支出計		756,195,226	
教育活動収支差額		△48,411,669	
教育活動外収支	事業活動 収入の部	受取利息・配当金	1,754,648
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	1,754,648
	教育活動外収支差額		1,754,648
経常収支差額		△46,657,021	
特別収支	事業活動 収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	2,805,000
		特別収入計	2,805,000
	事業活動 支出の部	資産処分差額	8,353,213
		その他の特別支出	0
		特別支出計	8,353,213
特別収支差額		△5,548,213	
基本金組入前当年度収支差額		△52,205,234	
基本金組入額合計		△20,988,191	
当年度収支差額		△73,193,425	
前年度繰越収支差額		△1,566,245,457	
基本金取崩額		57,269,776	
翌年度繰越収支差額		△1,582,169,106	
事業活動収入計		712,343,205	
事業活動支出計		764,548,439	

(3) 教育研究経費比率

(教育研究経費比率(%))=教育研究経費支出÷帰属収入×100)

学校法人佐保会学園(全体)

単位円

区分	帰属収入合計	教育研究経費支出	教育研究経費比率%
平成29年度	672,485,401	180,792,608	0.269
平成30年度	665,130,211	166,984,071	0.251
令和元年度	624,261,146	162,130,695	0.259
令和2年度	712,343,205	191,024,794	0.268

6. 土地建物

単位㎡

区分	土地	建物延面積	備考
短期大学	34,730	11,145	借地合計：3,505㎡
校舎・講堂・体育施設	12,262	10,729	
屋外運動場	17,812	—	
その他	4,656	416	
附属生駒幼稚園	3,812	1,532	
建物敷地等	2,846	1,532	
屋外運動場等	966	—	
附属河内長野幼稚園	1,824	695	
建物等	1,274	695	
屋外運動場等	550	—	
附属倉敷幼稚園	3,028	574	
建物敷地等	1,389	574	
屋外運動場	1,639	—	
合計	43,394	13,946	

II 事業の概要等

1. 奈良佐保短期大学

1. 教育、研究等に関する事業

(1) 生活未来科

(ア) 生活未来科成果報告会の実施 継続（平成 23 年度～）

2月6日（土）にならまちセンター市民ホールにて実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況の悪化により、学内にてインターネット配信で行うこととなった。コースごとに分かれて視聴し、学生発表は学生ホールから行った。また、プログラムも予定の講演会を1つに減らし時間短縮を図るなど感染予防に留意した。外部者（入学予定者・実習関連施設・奈良県内高等学校・保証人）に対しては、関係者の都合のよいタイミングで視聴可能なオンデマンド配信により、視聴してもらうこととした。

当日のプログラム

タイムスケジュール	会場	内容
13:00	622 教室	開会挨拶：馬越学長 司会：ビジネスキャリア(以下「BC」という。)コース1回生 第1部 講演会「認知症サポーター養成講座」講演者（4名） 奈良市認知症地域支援推進員 三原由紀氏 奈良市都南地域包括支援センター 西館毅氏 認知症当事者 横田宏之氏 デイサービス kumiki 藤田浩司氏
14:30		休憩
14:40	学生ホール	第2部 成果報告会 司会：BC コース1回生 発表：①BC コース発表（7名） ②生活福祉コース発表（9名） ③食物栄養コース発表（29名）
16:10		閉会挨拶：森永学科長

また、終了後は Google フォームでアンケートを実施し、外部からは 10 名の回答をいただき、1 回生 2 回生に関しては終了後に Google フォームでのアンケート記入を行った。

初めての試みであったが、遠方から来ている学生の保護者からは、視聴出来てこどもの様子が分かりよかったとの評価を得た。新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにインターネット配信を活用したが、結果としてどこからでも見てもらえる利点が活かされたと考える。その反面、情報を配信する際には個人情報のことなど気を付けなければならない点が多い。また、アクセスも出入りが多いため、アンケート方法や内容にも工夫が必要と考える。（課題）

(イ) 福祉フェスタの実施 継続（平成 28 年度～）

11月に予定されていた福祉フェスタは新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止となった。しかし、奈良県介護人材確保対策総合支援事業「潜在介護福祉士の再就業促進事業」の補助事業として補助金交付が決定していることもあり、2月6日（土）の成果報告会と合わせ、大学のウェブサイト上に「福祉フェスタ」のコンテンツを期間限定（2/6～2/26）で設置した。生活福祉コースは「自助具（1回生）」「研究発表（2回生）」、食物栄養コースは「2020 行楽弁当コレクション（1回生）」「嚥下食（2回生）」、ビジネスキャリアコースは「おうちであそぼう（1回生）」「2020 年度卒業研究報告（2回生）」と各コースの特徴を活かしそれぞれ企画したものをあげた。また、成果報告会の録画を2月20日（土）から26日（金）まで視聴できるようにした。初めての試みで準備等手探りであったが、各コンテンツともにアクセスをいただいているとのことであり、次年度以降もこうした内容をウェブサイトにあげて広報活動に使えるのではないかと考える。

次年度は感染状況を確認しながら例年通り11月に実施する予定である。

(ウ) ミス・パリ エステティック専門学校との連携 継続（平成 28 年度～）

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、外部からの講師を迎えることが難しく中止した。

次年度は感染状況を確認しながら実施する予定である。

(エ) 吉本興業漫才作家によるコミュニケーション演習 継続（平成 28 年度～）

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、外部からの講師を迎えることが難しく中止した。

次年度は感染状況を確認しながら実施する予定である。

(オ) 入学前体験授業の実施 継続（平成 23 年度～）

令和 2 年 12 月 20 日（日）13：30～14：30 に「入学前体験プログラム 第 1 回入学前体験授業」を実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、合同での体験授業ではなくコース別に実施し、また、オンラインで GoogleMeet を使った体験授業を行った。

9 月・10 月・11 月の合格者に対し、当日は各コース別に分かれてオンラインによる体験授業を行った。

入学予定者は携帯電話やパソコンなどそれぞれ自分の端末を使用して受講した。コロナ禍で対面でのやり取りが難しい中、入学予定者の顔をみて話ができただのはよかった。次年度も感染状況を確認しながら引き続き行っていく。

<生活福祉コース>

(ア) 学生確保のための広報活動の工夫 継続（平成 24 年度～）

①現役の高校生に対して、模擬授業や説明会を実施した。

	行き先	参加人数	担当教員
9 月 7 日（月）	奈良県立添上高校	4 名	武田
10 月 28 日（水）	奈良育英高校	2 名	武田
12 月 9 日（水）	奈良県立磯城野高校	6 名	武田
1 月 22 日（金）	奈良県立大淀高校（ZOOM 参加）	5 名	武田
2 月 1 日（水）	奈良県立高取国際高校	7 名	武田
2 月 3 日（水）	奈良県立西ノ京高校	5 名	西村
3 月 3 日（水）	奈良県立西ノ京高校	3 名	西村
3 月 18 日（木）	三重県立あけぼの高校（ZOOM 参加）	11 名	武田

計 8 回実施（前年は 5 回実施）

②8/26 に例年実施している磯城野高校の入浴実習・介護の仕事についての説明を行った。

③奈良県社会福祉協議会・奈良県福祉人材センターの委託による「かいご『再就職』応援セミナー」の講師として招かれ（12/13・2/10）、講座終了後に本学の広報活動につなげた。

12/13 は 30～60 歳代計 10 名、2/10 は 10 数名の参加があった。

④奈良県が実施する職業訓練生として入学した学生の PR 動画を入試・広報センターと協力して作成した。

(イ) 3 つの新フィールドについての検討 新規（令和 2 年度～）

令和 3 年度入学生から地域・防災福祉フィールド、介護予防フィールド、障害者福祉フィールドの 3 つのフィールドでの学びを進める。主に 2 回生時のゼミナールで学ぶことを前提に進めているが、1 回生時からそれらの内容にも触れていく。3 つのフィールドで具体的にどのような学びを深めていくかを検討する。

(ウ) 国家試験対策とカリキュラムの整理 継続（平成 29 年度～）

①カリキュラムの検討

令和 2 年度中に改正カリキュラムの変更届けの必要があり、カリキュラムの検討を行い、申請した。選択必修科目を見直し、介護福祉士必修科目に加え短期大学の卒業必修科目、学科推奨科目等があり、履修すべき授業が増えすぎることを抑えるようカリキュラムを見直した。学生にとって負担がかかりすぎない仕組みにすること、留学生にも取り組みやすいようカリキュラムの設定を行った。また、「チームマネジメント」「防災・災害福祉」の 2 科目を新設した。既存の科目についても科目名を見直し、テキストのタイトルと揃えることで学生に混乱が起きないように配慮した。

②国家試験対策

- ・中央法規出版の模擬試験を11月21日（土）に実施、2回生9名が受験した。
- ・平成31年度入学生のうち留学生の国家試験受験対象者は1名であり、模擬試験では偏差値61と高得点であった。一般学生の中には偏差値が50以下の学生が1名いた。9名の平均偏差値は56.4であった。後期授業内「専門ゼミナール」「ゼミナールⅠ」「介護過程Ⅳ」の授業を活用しながら、国家試験対策を行った。
- ・昨年より、卒業生に国家試験当日の体験談や受験勉強について話してもらう機会を設けていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため今年度は実施せず、卒業生からのインタビュー内容を授業内で伝えた。（1/18）
- ・1月31日（日）に国家試験を9名が受験した（大阪会場：インテックス大阪）。3月26日（金）に合格発表があり、全員が合格した。養成校別の合格率が厚生労働省ホームページに掲載され、現役学生の合格率が100%と表示された。養成校別合格率を確認すると、既卒性は2名受験したようであるが、2名とも不合格であった。
そのため、奈良佐保短期大学の全体の合格率は81.8%であった。

(エ) 介護実習の在り方の検討 継続（平成29年度～）

- ・平成29年度入学生から実習の時期を変更し、実習要綱及び実習記録を見直し日々の記録や介護過程の様式を新しくした。専任教員が実習指導者との事前打ち合わせ・実習巡回指導・実習終了後の面談を行い、学生の実習状況の把握に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1回生の介護実習Ⅰ①（6/1～5）を実施できず、その分の5日間を後の実習（介護実習Ⅰ②に3日間、介護実習Ⅱに2日間）に振り分けて行うこととした。
- ・1回生の介護実習Ⅰ②（8/25～9/11）及び2回生の介護実習Ⅲ（8/19～9/15）についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設に向いての実習を行うことが難しく、学内で実習を行った。2回生は介護過程の展開に関して実習施設の協力の下、実際の利用者を担当し、施設から情報提供を受け介護計画を立案した。計画実施は施設職員に依頼し、その結果を分析した。1回生については2回生から技術の指導を受ける機会を設け、学内実習を実施した。実習施設の職員4名に講演を依頼し、両学年ともに講義を聞くことができた。
- ・1回生の介護実習Ⅱ（2/15～3/16）についても新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設に向いての実習が行えず、学内実習とした。介護実習Ⅱは20日間の実習であるが、学内実習を10日間とし、残りの10日間は2回生時の6月に施設にて行う予定とした。利用者事例を2例作成し、それぞれの利用者に対する支援、介護過程の展開（生活課題の立案まで）を実施した。
- ・相談援助実習①（3/1～3/14）についても新型コロナウイルス感染症拡大防止のため施設に向くことができず、2回生時の6月に延期することとした。本来6月に予定していた相談援助実習②については、2回生時の夏休みの時期に実施する予定。

(オ) 事例研究発表会の実施 継続

- ・「事例研究発表会」「介護現場における実践報告および事例研究発表会」を12月11日（金）に開催した。今年度は実習先施設（34施設）のみに外部発表演題を公募した。外部からの発表申し込みは1件あり、留学生のアルバイト先施設に就職している卒業生であったが、当日施設の都合により発表できなかった。外部参加者については、介護実習Ⅲおよび相談援助実習②の実習指導者、留学生のアルバイト先の施設関係者に限って案内した。
- ・生活福祉コース2回生ケアワークフィールド8名、ソーシャルワークフィールド1名が発表した。
- ・当日は生活福祉コース学生28名、生活福祉コース教員4名、実習指導者2名、非常勤講師1名、学内教職員10名、地域こども学科保育ソーシャルワークフィールド2回生2名、計47名の参加となった。

(カ) 実習施設懇談会の実施 継続（平成29年度～）

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できなかった。

(キ) 介護福祉士養成施設協会 奈良県代表校 継続（平成31年度～）

今年度も引き続き奈良県代表校として近畿ブロック会のZOOM会議に出席した。（9/3）

<食物栄養コース>

(ア)「基礎ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅡ」授業内容の充実(平成28年度～)

①「基礎ゼミナールⅡ(1回生後期)」では、栄養指導論実習や給食実務論等で栄養価計算や献立作成など計算力、数的感覚が求められる科目が増えてくるため、専門科目の学びに欠かせない計算の復習・練習、また毎回次年度の学外実習での記録簿の作成を見越し毎回漢字テストを実施した。「地域防災避難訓練」は中止になったが、災害に備えて防災食の試食、段ボールベッド等の組立、防災町歩きなどを行った。後半は、科目横断で課題となっている献立作成に向けて、秤量実習や目標量を踏まえて調理実習、料理の洗い出し作業など教員も多く関わりながら取り組むことができた。

②「ゼミナールⅡ(2回生通年)」では、令和元年度に良い流れを掴むことができたので、それを踏まえて就職活動、給食管理実習、学外実習等に関わる事項について計画的に取組んだ。給食会社採用担当者に就職試験のグループワークや筆記試験の実際を体験させていただいたり、働く現場として増えている委託会社栄養士の働き方など具体的に示していただいたり、実務経験を積み管理栄養士試験に合格した先輩栄養士の話は学生たちより給食会社で働くことをより身近に考える機会となり、不安が払拭されたと好評であった。

後期は栄養士実力認定試験対策を行い、令和2年度は25名が受験し、A判定14名(56.0%)、B判定10名(40.0%)、C判定1名(4.0%)で、令和元年度、A判定17名(79.9%)、B判定4名(17.4%)、C判定2名(8.7%)より悪い結果となった。

(イ)「ゼミナールⅠ」フィールド制科目における取組みの見える化(平成28年度～)

①「ゼミナールⅠ(フィールド)」は、前期(2回生)は、各フィールド1回生後期での取組みを活かし、実践活動に取り組む予定であったが、コロナ禍のため訪問活動や講座の開催はできなかった。各フィールドでコンテストなどにも取り組んだが、受賞には繋がらなかった。

医療・福祉フィールド	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもと高齢者向けの献立作成 <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応食 ・高齢者対応食 ●コンテスト <ul style="list-style-type: none"> ・ご当地タニタごはんコンテスト《入賞なし》 ・シーフード料理コンテスト《入賞なし》
食育フィールド	<ul style="list-style-type: none"> ●食育指導用ツールの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・食育お弁当(フェルトで野菜や料理を作成) ・栄養絵本と季節のおたより作成 ・食育動画(生育編・クイズ編・料理編) ●コンテスト <ul style="list-style-type: none"> ・チー1(ワン)グランプリ(奈良の郷土料理と掛け合わせたもので出品)《入賞なし》 ・カルローズ米料理コンテスト(カルローズ米を使用したスープごはん)《入賞なし》
製菓フィールド	<ul style="list-style-type: none"> ・ザ・地産地消 家の光料理コンテスト「スイーツ部門」に3品出品 <ul style="list-style-type: none"> 「そうめん団子」「宇陀金ごぼうチョコカップケーキ」 「若草山のチーズケーキ」 《予選落ち》 *「宇陀金ごぼうチョコカップケーキ」は10月の外部イベントで販売
フードビジネスフィールド	<ul style="list-style-type: none"> ・ザ・地産地消 家の光料理コンテスト「スイーツ部門」に4品出品 <ul style="list-style-type: none"> 「赤米大福」「もろこしだんご」「米粉でふかふかカステラ」 「米粉蒸しパン」 《予選落ち》 ・SAHOファームで収穫されたさとうきびから黒糖づくり

②後期(1回生)は、例年は11月の福祉フェスタでの実践活動に向けて活動するが、コロナ禍で中止になっ

たため、各フィールドで目標を決めて取り組んだ。医療・福祉フィールドは「嚥下食」、食育フィールドは「こども向けの行事食」「食物アレルギーコンテストに向けての料理の考案」、製菓フィールドは外部イベントに向けて「お茶」「バレンタインデー」をテーマに商品開発、フードビジネスフィールドは奈良の柿などを使用した商品開発に取り組んだ。医療・福祉、フードビジネスフィールドは、奈良県が有する歴史・文化等の観光資源を活用した魅力ある観光地づくりを推進し、戦略的な観光施策を展開するための地元食材である大和妃子鶏を活用した料理レシピコンテストに応募した。「花みょうが餃子」で入選し、2月には料理を紹介するための動画撮影にも取り組み、エムワイピー・食文化研究会のYouTubeチャンネルで公開されている。(https://www.youtube.com/watch?v=Wm5iZhESVb8)

(ウ) 地域連携の強化(平成29年度～)

①ゼミナール等を活用した地域活動

- ・グループホームなごみで昼食提供を医療福祉フィールドで計画していたがコロナ禍のため中止。
- ・奈良市子育て支援センター親子を対象とした食育クッキングもコロナ禍のため実施できなかった。
- ・本学実施の地域防災避難訓練、奈良県中央卸売市場主催の市場まつりはコロナ禍のため中止。
- ・製菓フィールド(1回生)が考えたお茶のスイーツをJAなら主催「奈良秋の収穫祭&物産展」(10/28 まほろばキッチン JR奈良駅前店駐車場)、ソフィアフィールド奈良1周年記念イベント(12/6 奈良市・ソフィアフィールド)、ホワイトデーフェア(3/13・14 奈良市ミ・ナアラ特設会場)で販売。また、ミ・ナアラバレンタインデーフェア(2/13・14)ではバレンタインに向けた商品を開発し販売した。ミ・ナアラへの出店に際しては、卒業生も菓子開発から製造、販売にもボランティアで参加し、充実した商品構成で出店することができた。バレンタインフェアで客数94名(購入数 農園野菜等も含め計420点)、ホワイトデーフェアで133名(購入数 農園野菜等も含め計605点)であった。

②その他

- ・食育実践演習(1回生通年)に天理市の大和農園の協力のもと、前期はきゅうり4品種「わんぱく坊主」「四葉」「ホワイトティ」「ロジグリーン」、後期は「祝雷」「小松菜長楽」「ちぢみ小松菜」の播種から栽培管理、収穫、調理までを行った。大和農園から2名が5回授業に参加し、講義と栽培指導をしていただいた。収穫したもので学生たちが料理を考案し、大和農園に提案した。料理写真などは、商品冊子に料理例として使用されたり、cookpad「大和農園のキッチン」(https://cookpad.com/kitchen/40537267)にアップされている。
- ・公開講座を「防災食(飯田)」「親子クッキング(島村)」で実施する予定であったが、中止になったため令和3年度に繰り越して実施する。

(エ) 魅力ある食物栄養コースの発信

- ・オープンキャンパスでは、必ず食の体験ができるように企画をした。体験授業「生活と未来」では、防災食づくり、いちご大福作り、学科体験授業で食に関する内容がない場合は、新しく食育体験コーナー「食の扉」を選択プログラムとして作り、クイズや豆掴み、カラフル白玉団子(野菜ペーストを使用した団子)の試食などをしてもらった。演習を通して、教員とのコミュニケーションを図ることができた。しかし、今年度は学生スタッフが参加できなかったため、教員と学生の関係をPRできなかった。
- ・体験授業(出張講義)
8/30 奈良県立磯城野高校 3年生ヒューマンライフ科の入浴体験実習の際に介護食についての講義を実施(島村) 2/24 奈良文化高校 2年生食文化コース1クラス実施 「奈良の食を味わう」調理実習(島村)
- ・進路ガイダンス(体験授業)
10/5 奈良県立西ノ京高校2年生(島村)、11/9 奈良県立西和清陵高校2年生(池内)、1/27 奈良県立五條高校2年生(島村)、2/8 奈良県立奈良情報商業高校(飯田)、2/24 奈良文化高校2年生(島村)、三重県立上野高校2年生(紀平)

(オ) その他

- ・今年度はコロナ禍の中で例年お世話になっている学外実習先の受け入れ条件や内容が大きく制限されたの

で、学内実習においても学外実習先での給食時間（調理時間）に併せた内容を検討し、実践した。

<ビジネスキャリアコース>

(ア) ビジネス関連科目の整備 継続（平成 24 年度～）

ビジネスキャリアコースはこれまで短期大学ビジネスコースとして「ビジネス実務士」「情報処理士」「秘書士」などのビジネス関連科目を整備してきた。更に第二の柱づくりとして平成 28 年度から医療事務資格として「医事実務士資格」関連科目を導入し、令和元年は「医療秘書実務士資格」関連科目を導入した。令和 2 年は更に「医療秘書検定対策講座」を導入し、2 名の学生が 3 級に合格した。

(イ) ビジネス資格取得の推進 継続（平成 27 年度～）

企業現場で求められるビジネスマナー、コミュニケーション力、社会人基礎力養成の授業と併せて、信頼度を高め、就職の幅を広げるビジネス資格取得を推進してきた。本年ビジネスキャリアコース卒業生 7 名の内、ビジネス実務士 5 名、情報処理士 5 名、秘書士 5 名と、学生がそれぞれの資格を取得し、オフィスワークの基礎を身につけた。医事実務士資格は 2 名が取得した。

(ウ) 就職内容の向上および就職率 100%をめざす 継続（平成 25 年度～）

1 回生については、早期に就職活動への意識を高めるためにキャリア教育、就職指導の早期化を進めた。近年就職活動と繋がりが強いインターンシップについてもスケジュールの早期化に努め、令和 2 年度入学生より、インターンシップ I を 1 回生夏から実施した。2 回生については新型コロナウイルス感染症予防や緊急事態宣言の発出もあり、活動開始が遅れ、求人数も低下した。厳しい環境であったが、個別指導、学生・キャリア支援センター、新卒ハローワーク、民間業者と連携し、粘り強い就職支援により、2 月末段階で就職希望者 7 名の内、5 名が民間企業に内定を得た。残り 2 名に対しても就職支援を続けている。

(2) 地域こども学科

(ア) 免許資格取得に向けた教育の充実 継続（平成 23 年度～）

令和 2 年 3 月、こども教育コース（小学校教諭 2 種免許状及び幼稚園教諭 2 種免許状、保育士資格の 3 つの資格免許の取得を目指すコース）学生 6 名中、小学校教諭 2 種免許状及び幼稚園教諭 2 種免許状、保育士資格の 3 つの資格・免許を 6 名全員(100%)が取得した。こども保育コース（幼稚園教諭 2 種免許状・保育士資格の取得を目指すコース）で卒業要件を満たす 66 名中、幼稚園教諭と保育士の 2 資格のダブル免許を取得した学生は 57 名（86.4%）、保育士資格を取得した学生は 64 名（97.0%）、いずれの資格・免許を取得しなかった学生は 2 名（3.0%）の結果であった。

地域こども学科では、GPA 測定により総合的な学習成果の測定を行い、学外実習や進級の資料、就職推薦・奨学金推薦等の資料、卒業判定の資料として活用し、GPA 分布から一定基準に到達していない学生については、個別指導を実施した。

(イ) 初年次教育・基礎教育の充実 継続（平成 23 年度～）

地域こども学科では「基礎ゼミナール」「キャリアデザイン」授業を軸に初年次教育、基礎教育を指導する。例年は、①学外実習で「実習日誌」作成に必要な基本的な語彙の習得、②保育所・幼稚園・児童福祉施設等の訪問見学、③外部講師による専門の立場から社会人としての知識を習得するための講義研修、を 3 つの柱としてシラバスを作成してきた。1 年次には「基礎ゼミナール I・II」を開設し、社会人となるための基礎力を養うだけでなく、学外実習や教職実践演習へとつなぐものとして位置づけている。内容としては、基礎学力テストを実施して能力を測定・評価したうえで読解力を高める授業展開をするほか、外部講師を招いて社会人としての基礎を学び、保育者・教育者養成を目指す人材養成の観点から幼稚園・保育所・児童福祉施設等を見学、観察をしている。情報科目についても「情報処理演習 I・II・III・IV」とレベルアップして履修できるように開講し、基礎教養科目を通して大学学習の基礎的な科目、教養科目について幅広く学びが出来るように科目配置をした。

令和 2 年度について、コロナ禍の影響により遠隔授業の実施、「基礎ゼミナール」を活用しての施設訪問や外部講師による研修会等は実施できなかったのは残念であったが、1 年次の「国語表現法」「基礎ゼミナール I・II」等の基礎教育科目の内容が、専門科目の学びにつながる教育成果が見られた。

あわせて、4月の入学後オリエンテーション後に奈良県知事による感染症拡大防止のため休業要請を受け、直ちに「登校禁止」としたため、遠隔授業や個別電話をとおしてパーソナルティチャー(以下「PT」という。)がフォローアップし、不安を感じている学生保証人への対応にも取り組んだ。

(ウ) 就業力の育成 継続(平成23年度～)

「基礎ゼミナール」では、小学校・幼稚園・保育所・施設等での実務経験教員が、視聴覚教材を通して実際のこどもの姿を伝え、引き続き「教育実習指導」での日誌・指導案作成の専門教育につなげた。円滑な授業連携に基づき、学生が教育者・保育者として、期待感のもてる自己イメージにつながるようなキャリア教育に取り組んだ。

また、令和2年度より学生の入学時点から「履修カルテ」を作成・活用し、卒業に至るまでの2年間をとおして、実習自己評価のみならず、講義・演習の専門科目の履修状況・内容の理解度を客観的に評価・確認し、教育者・保育者を目指す上での自己課題を明確にして、学習の深化および実践力の向上に向けて学習成果を客観的に評価した。

授業外の取り組みとして、教員採用試験・幼保公立採用試験対策の授業を設定し、筆記試験対策・実技試験対策・論文対策・面接指導に至るまで、合格に向けて支援した。令和2年度は、教員採用試験対策授業に6名、幼保公立採用試験対策授業には12名が参加した。あわせて、卒業生の採用試験再チャレンジのフォローアップ指導も同様に実施した。

また、就職のために役立つであろうと思われる各種資格取得のカリキュラムを設定している。その中で「ピアヘルパー」試験受験に際しては、本学で補講を5回実施し、合格率100%に向けの取り組みを進めている。令和2年度は、本学で補講受講者は全員合格(100%)であった。

授業担当教員とPTが教育連携を図り、社会に有為な人材輩出に向けてきめ細かなキャリア教育を実践し、学科学生が取得した資格・免許を活かして、小学校・幼稚園・保育所・施設への就職率は100%であった。就職に至るまでは全ての学生一人一人の進路希望に応じて、専門教員及びPTが就職決定まで支援している。

(エ) 地域貢献事業の実施 継続(平成22年度～)

地域貢献事業として、例年では、こどもフェスタ、公開講座、高校・幼稚園・保育所等へ出張講義、ピアノ無料講習会を実施していたが、令和2年度はコロナ禍の状況につき、入試・広報センターから依頼のあった高校・幼稚園・保育所等へ出張講義、本学で実施されたオープンキャンパス開催日に同時実施としたピアノ無料講習会のみを行った。

令和2年度は、コロナ禍の現状を踏まえて「こどもフェスタ」は中止とし、学科全体として大きなイベント活動の開催は困難で、各ゼミナール別の活動とした。「スポーツ」ゼミナールでは、10月と12月の2回、本学に奈良佐保短期大学附属幼稚園児を招いて体育館で55名の園児と学生が運動遊びの実践を展開した。また、「自然と遊び」ゼミナールでは、学内の農園を活用し、学内で育てたマリーゴールドの苗をお世話になっている保育園・幼稚園、本学近隣各所に届けるという地域連携を基盤とした実践活動に取り組んだ。

(オ) 成果発表会 継続(平成22年度～)

地域こども学科では、学生のゼミナールでの学びの集大成として「成果発表会」を実施していたが、令和2年度は、コロナ禍の現状を踏まえて、「成果発表会」についても、外部会場で一般参加者を招いての開催はできず、各ゼミナールが成果報告の内容をビデオ録画し、学生間相互で学びあう取り組みとした。

新たに、令和2年度に初めて「教職実践演習」授業の総仕上げの取り組みとして、各自が教育者・保育者を目指す上で、自分自身で「テーマ」を決める「実践活動報告」を実施した。2回生が全員発表者となり、学内において分科会形式で3会場に分かれて実施した。あわせて、各自の発表内容についての抄録を「実践活動報告書」として作成し、学習成果のまとめとした。

(カ) 入学前学習支援 継続(平成23年度～)

①入学前研修会の実施

大学生活がスムーズにスタートが切れるように、令和2年度より3回にわたって入学前研修を実施した。

a 開催日

第1回：令和3年2月27日(土) 10:30～15:00 予定(①ピアノ講習を含む)

第2回：令和3年3月20日（土） 10:30～15:00 予定（②ピアノ講習を含む）

第3回：令和3年3月26日（金） 10:30～15:00 予定（③ピアノ講習を含む）

b 主な研修内容

- ・地域こども学科の特色等
- ・教育内容及び取得できる免許・資格
- ・授業内容についての事前準備等
- ・各実習に関すること
- ・ピアノ講習

3回目は職業訓練生10名も加わり、欠席者は1名のみであった。全3回とも学生のみの参加とし、研修内容については、保証人及びやむを得ず欠席した学生対応としてビデオ録画をウェブ配信し好評であった。

②ピアノ入学前講習会

令和2年度も、ピアノ実技に対する不安を解消すること、ピアノ実技科目となる「器楽演習」履修におけるピアノ教育の導入をスムーズに実施することを目的に、入学決定者全員を対象に、ピアノの入学前講習会を行った。昨年度から入学決定者全員を対象とし、入学時におけるピアノ実技経験を持たせること、及び音楽教育の充実へとつなげるために実施した。入学前研修会とあわせて、欠席者は第1回目4名、第2回目2名、第3回目1名、で無断欠席者はいなかった。

(キ) 子育て支援センター“ゆめの丘 SAHO”への支援 継続（平成22年度～）

子育て支援センターにおいて学科所属教員が毎月1日ずつ相談援助を担当している。今年度はコロナ禍の状況につき、子育て支援センター開設に制限があり、行事等の実習が困難であった。

(ク) 2回生保証人教育懇談会 継続（平成22年度～）

コロナ禍の状況につき、一堂に会した懇談会は中止し、PTが保証人及び保護者懇談が必要であると思われる学生について、また資格取得に課題のある学生及びGPAが2以下の学生8名については個人面談を実施した。個別の懇談に際しては、教員間で事前に学生の課題を共有した上で、PT・実習指導教員・学科長でチームを組んでの複数面談を実施し、学生の進路指導にあたった。

また、今後の学習支援・就職支援については、学生・キャリア支援センター及び障害学生学修支援センターと連携をとりながら進め、学科教員全員で情報共有をしている。

(ケ) 保幼小連携コースの運営 継続（平成25年度～）

保幼小連携コースは、こども教育コースとして運営されている。令和2年度は、こども教育コースの運営については次の点を見直した。

まず、教育課程の見直しとして、幼稚園実習時期を9月1週間とし、こども保育コースの時間割に準じて履修することになった。こども教育コースは小学校教諭を目指すコースというよりもむしろ、保育所・幼稚園・小学校の連携を意識したコースとして設立した経緯があり、その意味では幼稚園教育実習をすることに意味がある。しかしながら2年間で3免許をとることは学生の負担が大きいため、幼稚園教育実習を2週間から1週間に変更した。

近隣小学校でのスクールサポートについては、昨年度は、奈良市立の小学校と調整を重ねた上で、ゼミナールや総合演習の時間に、小学校で授業支援をし、その後、スクールサポートの振り返りをするスケジュールを組むことができた。実習以外に小学生への学習サポートの活動を実施することで、児童への関わりを深く考えるきっかけになっただけでなく、こども教育コースの学生の小学校教諭取得への意識を高め、教職を目指す学生を方向づけることができた。

令和2年度は、コロナ禍の状況につき小学校訪問は困難であったが、ゼミナールや総合演習を活用したシラバスは準備を進めている。

(コ) 保育ソーシャルワークフィールドの充実 継続

社会福祉士養成課程における教育内容の見直しが行われ、令和3年度4月からより新しい教育内容になるのを受けて、大学としての方針が検討され、社会福祉士養成課程を終了することが決定された。そのため、保育ソーシャルワークフィールドとして社会福祉士養成の入学者募集は令和2年度の学生で終了となる。

令和2年度は、保育ソーシャルワークフィールド学生が3名存続し、保育士の中でも福祉分野や施設関係に強い保育士養成をすることを目的に指導教育にあたる。

(3) 日本語教育別科

(ア) 学習能力および学習意欲、学習習慣の確保する。

春学期にベトナムから12名の入学希望者があった。新型コロナウイルス感染症対策のため8名のみの入国となった。入国後2週間の待機を得て4月13日(月)に授業を開始した。残りの4名については入国が不可能となった。

入学後すぐにオンライン授業となったが、大きな問題もなく授業が実施できた。

日本語能力のレベルが異なる学生がいるため、能力別に2クラスに分けて授業を実施した。

秋入学予定の2名については入国できるまで現地とのオンライン授業を実施した。12月に入国し自宅待機中もオンライン授業を継続した。

(イ) 留学生コンシェルジュを配置する。

留学生担当者(留学生コンシェルジュ)を配置し、留学生が学習面だけでなく、生活面でも気軽に相談できる体制を整えた。

また学生・キャリア支援センターを中心にアルバイト時間の管理やビザの有効期限等の管理や指導を行った。

(ウ) 日本文化や日本の伝統にふれる機会を設ける。

新型コロナウイルス感染症対策のため、日本の伝統文化に触れる機会や季節を感じる調理実習などは、奈良という地の利を活かした世界遺産学習や伝統行事等の現地学習は自粛し、学内で感染防止に配慮し実施した。

(エ) 学習時間を確保する。

夏休み・春休みなどの長期休暇中も継続して学習を進めることができるよう補習を行う。

夏季休業中に21日間、春季休業中に25日間の補習授業を実施した。春季休業中にはN2レベルテストを実施した。

(4) 滋京奈地域人材育成協議会への参加 継続(平成28年度～)

平成28年度に文部科学省産業界ニーズGPのさらなる発展を目指して設立された滋京奈地域人材育成協議会に引き続き会員校として参加。「社風発見インターンシップ」や「滋京奈合同企業説明会&企業研究会」などの各種事業を通じて、滋賀、京都、奈良の加盟大学とともに地域を支える人材育成に取り組む。

(5) 介護職員初任者研修

(ア) 介護職員初任者研修課程の実施 継続(平成25年度～)

オリエンテーション期間に説明会を行い、受講生の募集を始めたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一旦研修開始日程を延期することとした(令和2年4月8日(水))が、そののちに開講のめどが立たないことから中止することとなった。(令和2年5月20日(水))

3月の入学前説明会、4月のオリエンテーションで各学科コースから学生及び保証人に周知し、4月3日(金)に説明会を行った。説明会には27名が出席し、そのうちの4名についてはすぐに受講の意思を表したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修を中止することとした。1回生については次年度での受講を勧め、2回生については他事業所の紹介、次年度以降(卒業後)も研修を受けることができることの説明、保育ソーシャルワークフィールドの学生に対して相談援助実習①の実施前に補習を行うため、2回生も希望があればその補習に参加できることを説明した。その結果2回生が他の事業所で研修を受けることはなく、保育ソーシャルワークフィールド学生に対する補習への参加希望もなかった。保育ソーシャルワークフィールド学生への補習は令和3年2月25日(木)に実施した。

本学学生以外にも卒業生や一般からの受講生も募るため、令和2年3月上旬よりウェブサイトにて情報をア

ップすることと履修証明プログラムの1つとして地域・国際連携センターからも応募を呼びかけた。

外部から1名の受講希望があったが、研修中止のため受講につながらなかった。

(イ) 教育訓練給付金制度の申請 継続（平成29年度～）

地域・国際連携センターと連携し、教育訓練給付金制度の申請を行い、採用されることが決定し、外部受講生への説明を地域・国際連携センターに依頼した。

(6) 国際化

中国、ベトナム、インドネシア等の留学生確保に努める。

(7) 研究紀要の刊行（継続 昭和51年度～）

本学教職員の研究成果を発表する機会としての「奈良佐保短期大学研究紀要」第28号の発行

「奈良佐保短期大学研究紀要」第28号を3月31日（水）に発行した。論文2件、研究報告7件、計9件に加え、「2020年度研究業績一覧」を掲載し、250部を印刷した。教職員や非常勤教員に配付し、国立国会図書館や関係法人等の6箇所に発送した。

2. 入学生の確保に関する事業

<入学試験関係>

(1) 令和3年度入試状況 3.23現在

(ア) 6日間の入試日程で次にあげる種別の入試を実施し合否判定を行った。結果は次のとおりである。

項目	回数	生活未来科			地域こども学科			計		
		受験者数	合格者数	辞退者数	受験者数	合格者数	辞退者数	受験者数	合格者数	辞退者数
総合型選抜(体験)	1	4	4		10	10		14	14	
総合型選抜(面談)	5	1	1		5	5		6	6	
学校推薦型選抜(指定校)	1	12	12		24	24		36	36	
学校推薦型選抜(公募)	2	3	3		2	2		5	5	
一般選抜	1	2	1		1	1	1	3	2	1
自主的活動評価入試	3	9	9		3	3		12	12	
社会人入試	5	1	1		2	2		3	3	
連携校入試	1	5	5		8	8		13	13	
特別連携校入試	1				2	2		2	2	
外国人留学生入試	5	14	14	1				14	14	1
離職者職業訓練	1	20	13		19	10		39	23	
合計		71	63	1	76	67	1	147	130	2
入学予定者数		62			66			128		

※離職者職業訓練は、令和3年度入試から従来の介護福祉士養成科（8名募集）、栄養士養成科（10名募集）、保育士養成科（10名募集）の募集となった。

外国人留学生の国籍は、ベトナム6名・バングラデシュ1名であった。

入試種別ごとの志願者数の推移

項目	令和3年度入試	令和2年度入試	令和元年度入試	平成30年度入試
総合型選抜(体験)	14	35	26	35
総合型選抜(面談)	6	20	13	17
学校推薦型選抜(指定校)	36	19	26	20
学校推薦型選抜(公募)	5	5	4	5
一般選抜	3	1	7	6
自主的活動評価入試	12	3	6	4
ファミリー入試				5
社会人入試	3	5	4	8
連携校入試	13	12	11	10
特別連携校入試	2			
外国人留学生入試	14	13	4	8
離職者職業訓練	42	27	34	20
合計	150	140	135	138

(イ) 受験生の出身高校所在地は、次のとおりである。3月入試含まず

府県名	奈良県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	和歌山県	三重県	その他	留学生	計
3年度	64	1	14	7	0	2	4	2	8	102
2年度	75	0	20	9	4	1	8	10	13	140
元年度	60	1	14	4	2	4	2	44	4	135
30年度	71	2	16	2	1	1	4	33	8	138

※「その他」には、離職者職業訓練者数も含む

(ウ) 令和2年5月25日(月)に近府県の高等学校進路指導担当教諭を対象とした入試説明会を、622講義室にて開催した。参加校は、次のとおりである。

府県名	奈良県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	和歌山県	三重県	その他	日本語学校等	計
3年度	18		2	1						21
2年度	26	0	3	1	0	0	0	0	0	30
元年度	24	0	3	1	0	0	0	0	0	28
30年度	25	0	3	2	0	0	0	0	0	30

(エ) 日本語教育別科の令和3年度入試の概要

国籍	エントリー数	事前面談者数	事前面談結果		合格者数	入管在留許可	大使館査証発行	備考
			許可	不許可				
ベトナム	1	1	1		1	1	未	入学辞退
バングラデシュ	1	1	1		1	1	未	入学取消
合計	2	2	2		2	2		

(オ) その他

①新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策の徹底として、マスク着用、各試験会場アルコール設置、非

接触式体温検知器の設置等を実施した。会場準備では各試験会場のアルコール消毒、受験生間を広げた座席指定等を実施した。面接試験では受験生が入れ替わるたびに机・椅子・扉の取っ手等の消毒、受験生と面接官の間にシールド設置等を実施した。

また、ウェブサイトや受験票送付時に新型コロナウイルス感染症拡大防止の注意喚起と対応についての文書を同封した。体調不良者が生じた場合は、その対応及び健康状態チェックリストを作成した（大学入学共通テストに準ずる）。

②課題

・面接官の自覚

事前に学生募集要項と役割分担を配付しているにもかかわらず、担当する面接試験の設問趣旨を理解せず、面接試験に臨んだ面接官がいた。面接試験終了直後、評価の修正を行った。可否には影響はしなかったが、面接官としての資質に課題が残る。

・試験問題の点検強化

口頭試問の正答例に誤りがあることが、面接試験実施前（入試当日）にわかり、すぐに訂正し実施した。面接試験には影響はなかったが、再発防止に努める。

・外国人留学生入試のエントリー時における提出書類について

エントリーで日本語能力試験レベルN2の取得ができていないことが判明した場合は、日本語能力N2相当の証明書の提出を求めることを検討する必要がある。

(2) 令和4年度入学者選抜の検討

(ア) 文部科学省から通知のあった大学入学者選抜改革を受け、令和3年度入学者選抜学生募集要項を大きく変更した。令和4年度入学者選抜は、基本的には令和3年度入学者選抜を踏襲する。

(イ) 総合型選抜（体験）は、体験授業・事前面談を昨年の2回から1回に変更した。

(ウ) 地域こども学科こども教育コースは、昨年までは保育士・幼稚園教諭・小学校教諭免許状を目指したが、令和4年度入学者より幼稚園教諭と小学校教諭免許状のみを目指すことになったため、学生募集要項を変更した。また、入試ではないが、入試当日に実施していた地域こども学科こども教育コースのコース決定に伴う「基礎学力試験」は実施しないことになったため、学生募集要項を変更した。

(エ) 推薦書や確認書は、本学ウェブサイトからダウンロードできるようにする。

(オ) 外国人留学生入試で提出を求めている日本語能力証明書のうち本学独自様式に所属長印と記載責任者印を追加した

(カ) 学生募集要項のQ&Aにオープンキャンパスやガイダンス等で質問される内容を追加した。

(3) 学生募集要項等の印刷業者の選定と必要経費の削減に努める。

(ア) 従前より学生募集要項の業者選定は、印刷仕様書を作成し、印刷業者（本学で納入実績のある印刷業者）への説明会を開き、「競争見積合わせ」による業者選定を行ってきた。

また、競争の力学が働くよう仕様書の説明会に5社以上の印刷業者が参加するよう努力した。

今回、5社が説明会に出席され、仕様書（3種類）ごとに最安値をつけた3社と契約した。

(イ) 学生募集要項の作成経費を削減するため、入稿のデータ化を実施した。

<広報関係>

(1) マスメディア関連から見た戦略的な広報活動

(ア) ニュースリリース実績

ニュースリリース	6本
新聞等掲載	6回

(イ) 広告実績

新聞広告	8回
大会誌広告	1回

(ウ) 奈良交通バスつりチラシ実績

1回

(2) イベント関連から見た戦略的な広報活動

(ア) オープンキャンパスを14回実施し、延べ263人が参加した。

開催日	参加者	高校3年生 既卒者	高校2年生 以下	保護者 付添者	アンケート 未回収 学年未記入	計	個別相談 申込者
4月19日(日)	-	-	-	-	-	-	-
5月16日(土)	-	-	-	-	-	-	-
6月7日(日)	26	2	18	5	51	5	
7月4日(土)特設	12		9	1	22	7	
7月12日(日)	19	1	22	13	55	2	
7月26日(日)特設	13		5		18	4	
8月8日(土)特設	9		8		17	6	
8月22日(土)	24	4	13		41	4	
8月30日(日)特設	1		1		2		
9月13日(日)	13	2	12		27	6	
9月19日(土)特設	3		3		6	3	
10月11日(日)特設	3	3	4		10	3	
11月14日(土)特設	1	6	3		10		
12月5日(土)特設	1	3			4	3	
1月23日(土)特設	-	-	-		-	-	
2月20日(土)特設	13	2	2		17	11	
3月27日(土)	3	27	11		41	1	
計	141	50	111	19	321	55	

オープンキャンパスの学科・コース別の参加状況

開催日	参加者	生活 福祉	食物 栄養	ビジネス キャリア	小計	地域 こども	検討中	合計
4月19日(日)	-	-	-	-	-	-	-	-
5月16日(土)	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日(日)	1	7	3	11	20	2	33	
7月4日(土)特設	1	6		7	6		13	
7月12日(日)	2	13		15	18		33	
7月26日(日)特設		2	3	5	8		13	
8月8日(土)特設		1	1	2	6	1	9	
8月22日(土)	2	5		7	19	2	28	

8月30日(日)特設					1		1
9月13日(日)		3	2	5	10	1	15
9月19日(土)特設			1	1	2		3
10月11日(日)特設			2	2	4		6
11月14日(土)特設		3		3	1	3	7
12月5日(土)特設		1			3		4
1月23日(土)特設	-	-	-	-	-	-	-
2月20日(土)特設							
3月27日(土)							
計	6	41	12	59	98	8	165

※4・5月のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

1月のオープンキャンパスは、学生が新型コロナウイルス感染症に感染したため中止した。

大人のオープンキャンパスを3回実施した。

開催日	参加者	社会人	高校生	付添者	計
9月25日(金)					
11月20日(金)		2			2
12月18日(金)		1			1
計		3			3

オープンキャンパス参加者（本学に関心をもつ高校生・社会人）の推移

	R 2		R元	H30	H29	H28	H27
	定例	特設					
4月			34	25	29	47	48
5月			40	31	31	41	31
6月	33		57	49	58	36	37
7月	33	26	37	26	63	83	57
7月			15	31	50	57	-
8月	28	10	45	47	37	-	55
9月	15	3	27	23	21	43	17
10月		6	-	-	-	-	-
11月		7	-	-	-	-	-
12月		4	-	-	-	-	-
1月			-	-	-	-	-
2月		15	28	-	-	-	-
3月	30		27	-	-	-	-
計	139	71	310	232	289	307	245

(イ) 高校訪問・高校説明会・体験授業・進学相談会実績

高校訪問(全教職員による)	2回
高校説明会・体験授業	37回
進学相談会	9回
資料頒布会	24回

※4～5月、1～2月の高校訪問は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、資料を送付した。

(3) スタッフウエア関連から見た戦略的な広報活動

(ア) 大学名・キャラクター入りの貸出用半袖ポロシャツ・イベントブルゾン作成と活用

オープンキャンパスの学生スタッフ	延べ 0名 参加
------------------	----------

※オープンキャンパスの学生スタッフや学生が参加する学外活動(地域の祭りや奈良スイーツ・コンテスト等)時にポロシャツやイベントブルゾンを貸し出して、参加学生には一体感を、外部の方には大学参加を認識いただき、本学の知名度・認知度の向上に努める計画をしたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学生の参加は取りやめた。

(4) 環境美化(広報ボランティア)関連から見た戦略的な広報活動

(ア) 広報ボランティアの登録と活動

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新規登録の募集活動も中止した。

生活未来科	8名	24名
地域こども学科	16名	

(イ) 環境美化整備(クリーンアップ大作戦)

バス停に草花プランターの設置	バス停前花壇と大型花壇(夏:ケイトウ、冬:ハボタン)の植栽
学内樹木の剪定	自然広場「夢の丘 SAHO」草刈・樹木の剪定
花いっぱい運動 ケイトウ 600株	花いっぱい運動 ハボタン 100株

(ウ) 朝のあいさつ運動

毎月第2週目に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(5) 看板関連から見た戦略的な広報活動

護国神社下の駐車場	大学名入り横断幕の設置	大学 広報
	オープンキャンパス告知用横断幕の設置	
1号館前	キャラクターの顔出しパネルの設置	
正門	キャッチコピー入り横断幕の設置	
正門・バス停	新型コロナウイルス感染症拡大防止注意喚起横断幕の設置	

(6) 印刷物関連から見た戦略的な広報活動

大学案内 (キャンパスガイド)	8000 部作成	オープンキャンパス・高校訪問・高校説明会等で配布
プチアセビ	年間 4 回発行 1 回あたり 300 部作成	
馬酔木通信	年間 1 回発行 2000 部作成	
学科チラシ		

(7) グッズ関連から見た戦略的な広報活動

奈良佐保クリアファイル		オープンキャンパス・高校訪問・高校説明会等で配布
奈良佐保カバン		
奈良佐保ボールペン		
奈良佐保緑茶		
奈良佐保チョコレート ハンドタオル		
奈良佐保マスクケース	3000 個 新規作成	
奈良佐保マスクングテープ	500 個 新規作成	

(8) 動画関連から見た戦略的な広報活動

大学紹介用ビデオ	生活福祉コース特別社会人紹介バージョン作成 (6 分)
リード契約	近鉄奈良駅 電照広告 動画更新

(9) 進学情報等関係業者から見た戦略的な広報活動

(ア) 雑誌・ネット・資料請求

マイナビ (雑誌)	JS コーポレーション (ネット)
ベスト進学ネット (雑誌)	アクセスリード (雑誌)

(イ) 雑誌・進学説明会案内

昭栄広報 (雑誌・進学説明会)	さんぼう (雑誌・進学説明会)
ライセンスアカデミー (雑誌・進学説明会・留学生関係)	エフォール (地図)

(ウ) 進学説明会案内

キッズ・コーポレーション	エフォール
T A P	ケーホウ

(10) ネット関連から見た戦略的な広報活動

ウェブサイト	ウェブデザインのリニューアル完了。「さわやかさ」なイメージにした。
L I N E	平成 28 年 8 月開始 リニューアル 令和 2 年 12 月に審査待ち お友達登録 403 名。イベント開催を告知。本学との繋がりが強化に努める。
インスタグラム	平成 30 年 3 月開始

	本学の四季折々の画像を公開。本学認知度の向上に努める。
--	-----------------------------

(1 1) 個人情報保護関連から見た戦略的な広報活動

広報媒体等への写真等の使用についてアンケートを実施した。次のような結果である。

同意しない		9名
各種広報誌 ウェブサイト	写真等の背景に写り込む程度は構わない	32名
	写真等の背景に写り込むこともいやである	2名
刊行物 記念アルバム	個人写真に写りたくない	20名
	集合写真に写りたくない	1名
	授業風景に写りたくない	5名

3. 大学建物の改修及び設備備品の購入、更新、経費の削減の取組み

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、各館の各階に消毒液とその台の購入・配置、1号館、2号館、3号館、6号館1階に非接触型体温計測機を設置した。また、換気を徹底させるため、常に空調機を運転させた。過去3年かけて空調機を更新していたので、消費電力を抑えることができた。

<電気料金の削減効果>

平成28年度	16,763,261円 (平成28年度を100とすると)
平成29年度	15,052,409円 (△1,710,352円 89.79%)
平成30年度	11,712,435円 (△5,050,826円 69.87%)
平成31年度	10,690,621円 (△6,072,640円 63.77%)
令和2年度	9,563,499円 (△7,199,762円 57.05%)

(2) 施設設備

2号館3階床Pタイル改修工事について授業時間等の空いている時期を調整した結果1月に3階の全講義室及び廊下が完了した。また、正門の石畳が浮いて車が通る度に動くため、石畳が破損する前に修繕する必要があり、年度末に修理を行った。地域防災避難訓練については新型コロナウイルスの影響を考え、昨年度に続き今年度も中止とした。次年度は10月開催を予定し、防災・環境委員会で内容等を検討していきたい。

(3) PCB廃棄物処理委について

PCBの処理技術が確立していなかったため、安全な廃棄処分が課題であったが、令和2年度に廃棄することが決定し、令和3年度中に処分することとした。処分に当たっては、多額の経費がかかることになるが、可能な限り低減させるよう努めた。

4. 学生支援に関する事業

<教務>

(1) 教学マネジメントの推進を図る。

教学マネジメントの推進については、総合的な教務管理システム及びこれらを活用した学生との情報共有システムであるGAKUENシステムの導入にともない学生支援情報システム saho navi へのシステム移行を実施した。GAKUENシステム導入時期が大学全体のスケジュールから大幅に遅れて9月からの移行となったが、情報メディアセンターと連携し、概ね年度内でのシステム移行が完了した。3月22日(月)のその運用推進を目的とし、教職員連絡会を開催し教職員に向けて円滑な業務推進に繋げるよう取り組んだ。

従来からの学生支援情報システム saho navi の運用方法の変更やウェブ時間割の活用停止があり、初動運用

での混乱も想定されたが、情報管理及び情報の精度を高め、情報メディアセンターと連携し運用上の設定の工夫を進めた。また、今後活用を推進するため教職員に向けての説明会等の開催やマニュアル作成の適宜実施を検討する。

例年の業務として、教育目標達成のため学修成果の査定(アセスメント)について、所定の教育課程における資格・免許の取得状況、卒業要件達成状況、単位取得状況・GPA から教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を把握し、精度の向上を図った。あわせて本年度は、地域こども学科において、学位規程に定めた「付記する専攻分野」について、取得する資格・免許に鑑み付記する専攻分野を改変した。

また、教務委員会の円滑な審議遂行のため、教職員に向けて教務委員会を開催し、議事録の周知と資料作成の工夫を行った。教授会進行の取りまとめもあわせて実施する中で、大学全体で取り組んでいる会議資料のペーパーレス化に向けて、教授会資料を Google Classroom にて配信する取り組みを2月から実施した。教務委員会の実施においても Google Classroom の活用、Google Meet の運用準備を進めている。

(2) 学科・コースの教育課程編成・実施の方針に基づき、地域社会や産業界など学外から意見を聴取しカリキュラム改革を行う。

本学両学科・コースにおいて特色あるカリキュラム運用に取り組んだ。まず、基礎教養科目においては、大学教育における ICT 推進に伴い、「情報リテラシー」を全学卒業必修科目とし、「データサイエンス」科目を新設し、大学独自科目として「奈良の伝統文化ⅠⅡ」整備した。

生活未来科においては介護福祉士関連科目について厚生労働省から通達に沿って科目の改変整備をし、地域こども学科においては、幼稚園免許認可に伴う文部科学省からの課程審査の承認に向けて新設科目や保育士資格申請科目および小学校教員免許申請科目との読み替えの検討を進めた。両学科においての学則変更および文部科学省・厚生労働省への課程申請を滞りなく終了し、令和3年度からの新たな学則を整備した。あわせて、学科・コースの教育課程編成・実施の方針に基づいてカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを構築した。

一方、例年、学修効果を高めるために履修人数や使用教室等について配慮し、またパワーポイントやDVD等映像資料の活用により学生の理解度を向上させるため、教室希望調査に則って、限られた教室の配置の工夫をしてきたが、令和2年度はコロナ禍の影響により、以下の点に細心の配慮に努めた。

- ・3密を避けた座席指定表を全教室に掲示
- ・全講義における感染防止対策の徹底
- ・使用機器等の消毒確認
- ・非常勤教員への本学取り組みについての連絡
- ・発熱等での欠席学生の情報管理と関係各部署への連携
- ・本学における危機管理対策本部の業務の一環として、コロナ感染情報について学生への連絡徹底なお、教育課程編成・実施の方針に基づいて、地域社会や産業界など学外からの意見聴取をする予定であったが、令和2年度はコロナ禍の現状を踏まえ、学外実習及び地域社会や産業界の方々に関わる教職員からの意見聴取にとどめた。

(3) 教育的効果を踏まえた年間予定と授業15回確保及び時間割を策定

コロナ禍による「登校禁止」の本学決定のもとで、「遠隔授業」による授業実施とし、6月からの対面授業と時間割調整・補講時間の再設定を実施した。

教職員も非常勤教員も大学事務体制が整わない中での遠隔授業の実施で、GAKUEN システムおよび学生支援情報システム saho navi については、大学構内のみでしか接続が出来ない状況であったため、全教務職員が交代で、本学から授業課題を配信し15回授業時間を確保した。

現状のコロナ禍の状況を踏まえ、今後の教育的効果を踏まえた年間予定と授業15回確保及び時間割の策定については以下の通り取り組みについて検討しつつ進めていくこととした。

- ・授業時間割コマについては、1クラスの人数制限を勘案して配分
- ・対面授業と遠隔授業のハイブリッドでの授業運営を検討

- ・授業の実施及び休補講については教育支援センターでの掌握
- ・コロナ感染に関する公欠等についての扱い規程の取り扱い
- ・非常勤講師への迅速な対応

なお、教育効果の向上に向けては、教員の学生支援情報システム saho navi の運用や Google for Education の活用の熟達が必要であり、そのための研修準備を適宜進める。

例年どおりに実施している履修科目の修得と資格取得については、コロナ禍における影響は見られず、令和元年度のピアヘルパー認定資格9名、認定ベビーシッター6名のところ、令和2年度はピアヘルパー認定資格16名、認定ベビーシッター35名と大幅に増加した。あわせて令和2年度からの準学校心理士については16名の申請があった。

(4) 地域社会に貢献し、社会人を積極的に受け入れる。

例年、科目等履修生を受け入れるため、ウェブサイト等により情報を公開し、地域・国際連携センターと連携して聴講生を受け入れてきたが、令和2年度は、コロナ禍の現状を踏まえて、本学卒業の科目等履修生の受講のみにとどめた。

奈良県委託訓練事業において、令和2年度入学生として介護福祉士養成2名、栄養士養成10名、保育士養成9名を訓練生として受け入れた。また、長期履修学生を受け入れるための体制を整えた。

(5) 事務組織の整備

コロナ禍での対面授業実施に伴う「出席管理」「授業課題配信」「時間割の策定」「年間授業計画の策定及び修正」等の業務を遂行するため、各部署における業務内容のバランスと人材配置について検討が必要であると考ええる。

< 学生生活 >

(1) 学生満足度を高める

- (ア) 「ほっとかない教育」の一環としてモラルの向上、マナー厳守の指導を行った。
- (イ) 健康増進法の観点から「奈良佐保短期大学敷地内完全禁煙」実施への取り組みを徹底した。
- (ウ) 通学時の安全面を考慮し、4月のオリエンテーションで交通安全講習会を実施したが、新型コロナウイルス感染症対策のため、全学対象ではなく自動車・自動二輪・バイク通学希望者のみの参加とした。秋に予定していた交通安全講習会は、自動車通学希望者を対象とし、YouTubeでJAFの交通安全講習会を視聴することとした。
- (エ) 障がいのある学生の支援をなお一層強化するため、学生相談室と連携し、学生の支援を行った。また3月にカウンセラーと学生相談についての件数や相談内容の動向などについて情報共有を行った。

(2) 学友会の活動を支援する

新型コロナウイルス感染対策のため、学友会総会は各クラスで実施した。
主な学友会行事については、学生の新型コロナウイルス感染症拡大防止と健康、安全を優先することとし、自粛することとした。

(3) 留学生を支援する

コロナ禍にあり、日本文化や伝統行事等、授業以外の補習、生活面、健康面での指導は困難であったので、個別的指導や相談による支援とならざるを得なかった。

(4) 大学祭の支援

大学祭は新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となった。

(5) 職業訓練生の対応について

出欠管理や月末報告に必要な書類や企画提案書の作成等は他部署・教員の協力もあり円滑に実施できた。

<障害学生修学支援>

(1) 支援体制の整備・運営

- (ア) 障害のある学生に対する組織的な修学支援の基本方針を策定、修学支援規程を制定し、障害学生修学支援委員会及び障害学生修学支援センターを設置した。
- (イ) 委員会を4回開催し、障害学生の認定、支援計画の決定から支援実施後の検証を行い、支援の公正で円滑な運営を図った。また、センターでは支援の調整に取り組んだ。

(2) 支援の実施

- (ア) 障害学生修学支援組織のみならず、教員、事務局職員が協力して支援に取り組んだ。
 - ・入学試験において配慮を実施した。
 - ・障害学生修学支援委員会で1名の障害学生を認定し、支援計画を策定した。
 - ・学校生活における支援として、コミュニケーションの支援や2名のカウンセラーによる学生相談を行った。
 - ・学修活動における支援として、授業の出欠確認での配慮、教室への引率、授業欠席への配慮、スライドの資料配付、課題提出期限延長、試験時間延長等を実施した。
 - ・進路における支援として、学生の意向に沿った就職情報の提供を行った。
 - ・支援の取り組みについて、在学生及び新入生並びにそれぞれの保証人に周知を図った。

(3) 教職員の専門的能力開発

障害学生修学支援センター職員に対して講座受講等研修を実施した。

<就職指導>

(1) 学生への就職活動支援時間の確保

- (ア) 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で就職活動の始動に踏み切るのが遅くなった。緊急事態宣言により、遠隔授業となったため、新2回生を対象とした進路希望調査面談を4月から実施できず、6月から開始した。例年は、面談時に就職フェアや企業説明会、他大学のオープンキャンパス等の案内もしていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、就職フェア等の中止が相次ぎ、オンラインによる説明会が実施された。しかし、オンラインに慣れていない学生が多く、参加する学生は少なかった。また、学外実習の時期も変更になったことで、さらに就職活動始動のタイミングが遅れた。

1回生科目「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」及び「キャリアデザイン」において、就職活動で必要となる基礎的な学力や知識（就活スケジュールや一般常識、自己理解、面接マナー等）を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をした上で、外部講師を招いた就職関連セミナー（スーツの着こなし講座・就活へア講座）を実施することにより、就職への意識を高めることができた。また教員と連携を図り授業内でキャリア意識を高める取り組みをしたことが、学生の就職への意識を高めたと考えられる。

- (イ) 2回生への進路希望調査面談を新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をして実施した。例年4月、5月に授業の合間や昼休み、授業終了後の時間を利用して学生への聴き取りを実施しているが、今年度は緊急事態宣言の影響で遠隔授業だったこともあり、6月からの面談開始となった。ほとんどの学生が資格を活かした就職を目指しているが、中には取得資格に関わることなく業種を希望する学生もいた。学生・キャリア支援センターでは、求人票の見方やエントリーシート記入への指導や履歴書等の書類作成、面接練習を実施する等、就職支援全般に支援している。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設や園の見学も断られることも多く、受験先を決定するのも困難であった。また、学生・キャリア支援センターになかなか入室しない学生については、メールや電話等で呼び掛けを行い、教員と連携して支援するよう努めた。

(ウ)「ほっとかない教育」を推進する観点からも、外部の就職支援機関、新卒応援ハローワーク、福祉人材センター、保育士バンク等との連携を進め、就職情報やオンライン説明会等の情報を学生に周知した。また、新卒応援ハローワークのジョブサポーターによる相談会を学内で8回実施し、就職活動の始動に踏み切れない、資格取得ができない、社会参加への意識が低い等、課題のある学生に個別に対応して相談を促した。

(エ) 公務員を希望する学生への支援を継続的に行っている。学内独自のもものと外部専門業者による二種類の講座を設定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外部専門業者による講座は中止となった。そのため、学内独自の講座に力を入れ、第1期から第3期に渡り実施し基礎学力の充実及び面接対策に当たった。

(2)「ほっとかない教育」としてのキャリア支援

(ア) 就職活動の始動に踏み切れない学生、資格取得をしないもしくは出来ずに進路変更をする学生、社会参加への意識の低い学生に対しては、働くことの意味を共に考え、適職発見に導くよう指導した。

(イ) 各学科の教員と積極的な情報共有を行い、学生への声かけや就職に対する相談等、積極的にサポートをしてもらった。情報共有により、学生の状況を把握しスムーズな進路決定に繋がった。

(ウ) 進路希望調査面談を個別に行った。学生全員と向き合う時間を設けたことで、個々の様子を把握し、進路意識が高まり、進路内定に誘導できた。

5. 組織・運営に関する事業

(1) 図書館の運営

(ア) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応 新規（令和2年度）

①開館及びサービス

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による奈良県の緊急事態宣言に伴い、4/23（木）～5/10（日）まで休館とした。5/11（月）～5/29（金）の遠隔授業実施期間中は、学内者に対して、グーグルフォームによる貸出・返却・複写の限定利用を事前予約制で再開した。5/18（月）以降、実技科目など対面授業で来校する必要がある学生に対しては、返却・貸出のみの対面でのサービスを再開した。6/1（月）からの対面授業実施後は、座席指定、利用時間制限、消毒の徹底など感染予防を徹底した上で、学内者に限り図書館サービスを継続した。

来学できない学生の学びをサポートするため、出版各社が無料で公開した電子書籍等を「期間限定含む無料で利用できる電子書籍等サイト」及び「遠隔学習に活用できるサイト」としてまとめ、5/5（火）からはウェブサイト等で公開し、遠隔授業の一助となるよう努めた。9月までは、更新した情報を新着情報として公開し、10月以降は、ウェブサイトの図書館リンク集として紹介した。

②電子書籍の導入

丸善雄松堂（株）の「Maruzen eBook Library（学術書籍に特化した機関向け電子書籍配信サービス）」と契約し、8/5（水）から遠隔授業の際にも利用できる電子書籍の提供を始めた。各学科・コースでの導入タイトルの検討を経て、3月末には、計21タイトル（図書資料24冊、消耗資料6冊）を提供した。

(イ) 学習成果の獲得に必要な授業・学生への支援

①学習資源の整備と充実（課題）

a 各学科・コースの学修成果獲得のための資料の充実 継続（平成15年度～）

国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムへの自館資料のデータアップ 継続（平成21年度～）

図書資料878冊、消耗資料487冊、雑誌510冊を受入・装備した。図書・消耗資料については、国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムへデータを追加入力した。

b 福祉関係資料の独自分類資料及び介護記・闘病記関係資料の充実 継続（平成23年度～）

令和2年度は福祉関係独自分類資料を105冊、介護記・闘病記関係資料13冊の収集と装備をした。

c 学習資源充実のための図書資料の遡及入力及び蔵書点検 継続（平成21年度～）

・学習スペースを確保及び学習資源を充実させるため、利用の多い開架図書データの遡及入力及び蔵書点

検（食物栄養関係資料：請求記号 498.51-498.54）を進めた。資料の分類訂正及び蔵書点検作業（188冊）を進め、目次情報の提供や適切な配架を行うと同時に、不要資料の選定及び除籍作業を進めた。

- ・年度末に、退職者及び専任教員全員（研究室貸出該当者：18名）に対し、「研究室貸出資料の点検についてのお願い」文書と「個人別研究室貸出資料リスト」を配付し、各教員にリストと現物の照合を求め、点検済みリストを回収した。
- ・「奈良佐保短期大学図書館資料除籍取扱内規」第3条第二号及び第三号の基準に従って、令和2年度は、図書・学術委員会で選定された「除籍対象資料」622冊を除籍処理した。
- ・蔵書の棚卸し（在庫確認）

令和2年度は、4,016冊点検した。作業方法については「蔵書点検機器ハンディーターミナル」（令和3年1月末購入）を活用し、雑誌5,250冊を点検した。

d 本学レファレンス記録の保存 継続（平成24年度～）

今後の利用者サービスに活かすため、本学レファレンス記録の保存に努めた。1年間で84件の事例を記録した。

e 学生・教員の学修・研究を支援する相互利用の推進 継続（平成21年度～）

国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムを活用し、他大学との文献複写、相互貸借を行った。件数は、文献複写（受付2件、依頼5件）、相互貸借（貸出1件、依頼2件）であった。

②学習方法の支援（講習会）

a 「新入生向け図書館利用ガイダンス」 継続（平成18年度～）

新入生向け図書館利用ガイダンスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るため、実施を見合わせた。

b 1回生対象「文献の探し方」講習会 継続（平成19年度～）

図書館の使い方及びオンラインデータベース「Japan Knowledge」「聞蔵」「カーリル」の使い方に関する講習会を図書館で実施した。

また、3密を避け、短時間で講習ができるよう「レポートを書くために使った情報源を参考文献リストに書くときは、どうすればいいの？」を本の場合、雑誌の場合」という表題での資料を作成した。

c 2回生対象「卒業研究・事例研究のための文献の探し方」 継続（平成19年度～）

5月26日（火） 2・3時限	「食品学実験」「調理実習」 分割授業	食物栄養コース1回生 11名（11：30～12：20）+ 18名（15：40～16：10） 計29名
5月29日（金）1時限	「基礎ゼミナールⅠ」	ビジネスキャリアコース1回生 8名
6月4日（木）3時限	「基礎ゼミナールⅠ」	地域こども学科1回生 C：13：10～（24名） A：13：35～（25名） B：14：00～（24名） 計73名
6月10日（水）2時限	「基礎ゼミナール」	生活福祉コース1回生 9名
6月12日（金）1時限	「基礎ゼミナール」	生活福祉コース1回生 10名

bの講座内容を踏まえつつ、参考・引用文献の書き方、「CiNii Articles」「グーグルスカラー」の使い方等、主に論文執筆に向けて必要なスキルを中心に講習会をした。

6月2日(火)4時限	ビジネスキャリアコース「卒業研究Ⅰ」	9名
6月30日(火)4時限	生活福祉コース「介護総合演習Ⅲ」	8名
12月9日(水)2時限	地域こども学科 保育ソーシャルフィールド	2名

③授業・教員との連携 継続(平成19年度～)

- a 図書館システム Lib Max の“ブックリスト機能”を活用した授業との連携 継続(平成21年度～)
図書館システムの“ブックリスト機能”を活用した所蔵資料のブックリストを作成し、併せてその関連資料を館内に展示するなど効果的な学習支援に努めた。
- b きらっと図書館講座の開催 継続(平成17年度～)
令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るため、実施を見合わせた。
- c 授業制作物の館内展示 継続(平成22年度～)
・「教育実習指導」(吉田・生駒・増井教員担当)で制作する「自己紹介カード」「布製手づくりカバン」及び「フェルトを使った名札」完成見本を参考資料と共に館内展示した。
- d 「図書館を活用した授業実践例」データの蓄積 継続(平成25年度～)
令和2年度は、「図書館を活用した授業実践例」を13件集積した。
- e 「授業科目レポート課題履歴」及び「奈良佐保短期大学教材データベース」データの蓄積
継続(平成26年度～)
令和2年度は、「授業科目レポート課題履歴」を14件、「奈良佐保短期大学教材データベース」データを27件集積した。

④学修成果の獲得に必要な具体的支援策の模索 継続(平成26年度～) (課題)

- a 令和元年度に集積した「図書館を活用した実践例(まとめ)」「奈良佐保短期大学教材データベース」「授業科目課題履歴」データを公開し、令和2年度も引き続きそれらのデータを集積した。令和元年度「生活未来科生活福祉コース事例研究集」に掲載された「論題及び引用・参考文献リスト」を作成し公開した。

(ウ)学修成果の獲得のための学生支援

①他部署・学科と連携した就職支援、学生支援の検討

- a きらっと図書館講座の開催 継続(平成17年度～)
新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るため、開催を見合わせた。
- b 「としょかん de カフェ : Xmasバージョン」 継続(平成28年度～)
新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るため、開催を見合わせた。

(エ)学修成果獲得のための学習環境の整備(課題)

①学習環境を整えるための館内整備及びグループ学習室の整備 継続(平成25年度～)

- a 新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るための対策
- ・3つの密(密閉・密集・密接)を避けるため、館内席数を半減
 - ・ロッカー番号による座席指定
 - ・閉館後の消毒
 - ・入口の手指消毒用アルコール設置
 - ・カウンターの飛沫防止フィルム設置等の感染対策をとった。

(オ)地域公開 継続(平成25年度～)

- ①令和2年度の学外者の利用は休止していたが、事前連絡なしの来館があり、複写など短時間などの利用とした。一般利用者の利用は、5日7名であった。入館に際しては身分証明書の提示を求め閲覧のみの利用とした。
- ②“奈良市地域子育て支援センター ゆめの丘 SAHO”のサービス提供 継続(平成20年度～)
“奈良市地域子育て支援センター ゆめの丘 SAHO”に対し、毎月絵本を中心とした資料(月30冊)の団

体貸出を行った。

(カ) その他（課題）

卒業対象者未返却者に対する対応策について 継続（平成 26 年度～）

未返却者に対して 12 月から授業内で教員から督促状の手渡しや、図書館員による督促状の手渡し及びメールや自宅へ電話督促を行うことで、12 月時点では、卒業対象者 2 名、新 2 回生 8 名の延滞者があったが、2 月時点で、卒業対象者及び新 2 回生ともに 0 名となった。

(2) 自己点検評価室の運営

(ア) 自己点検評価室の取り組み

自己点検評価室では点検評価担当員と共に令和 3 年度認証評価に向けて自己点検・評価報告書の作成を行っている。令和 2 年度における新たな取り組み（会議のペーパーレス化やコロナ禍における遠隔授業、修学支援事業等）を含めた報告書により適格を目指す。今後、エビデンス（根拠資料）の追加等をし、報告書の充実に努める。

今年度の短期大学生調査は回答方法をウェブ方式に変更して実施した。ホームルームの中で学生に回答してもらい紙の回答物を集める必要もなくなった。ウェブ調査での学生の回答は 213 名。また、その短期大学生調査の結果内容について馬酔木通信 40 号の自己点検評価室の枠に掲載して紹介を行った。他の調査関係では短期大学卒業生調査を実施した。データを見る限り本学の強み弱みを反映している調査結果となり、データを活用できるようしっかり取り組まなければならない。

毎月の自己点検評価室会議は、FD 推進委員会と SD 委員会の動きを把握し、自己点検・評価報告書作成に向けて情報共有を行っている。今後さらに自己点検・評価活動に対する認識を深めて研修会等の環境を整えていく。令和 2 年度の研修会等は以下のとおり行った。

①自己点検・評価研修会（google classroom にて実施）

内 容：研修 1 第三者評価受審にあたって

担当：倉田 清 氏

研修 2 短期大学基準協会認証評価

担当：中田 奈月 氏

日 時：令和 2 年 12 月 15 日（火）

対 象：教職員

参加者：41 名

②点検評価担当員会議

自己点検評価報告書作成にあたり、点検評価担当員による報告書の作成手順や各担当の範囲確認、今年度の変更点などの研修会を参加しやすいように 2 日に分けて同じ内容で実施した。

・点検評価担当員研修会

内 容：報告書の分担と記述について

日 時：令和 2 年 8 月 5 日（水）10:00～11:00

令和 2 年 8 月 7 日（金）10:00～11:00

場 所：3 号館会議室

説明者：池内自己点検評価室長、倉田事務局長

対 象：点検評価担当員等

参加者：15 名

(イ) FD 推進委員会の取り組み

学修成果に関する調査及び公開授業、FD 研修会の内容等について検討した。

学習成果に関する調査を今年度も 2 回行い、学修成果の獲得状況について調査を行った。今年度からウェブ入力に変更し、学生に QR コードを示し授業内で回答を依頼した。自由記述での意見について FD 推進委員で審議し、学生に回答が必要と判断した意見には担当者及び担当部署に回答を依頼し、評価室で回答を集約

した。まとめた回答を調査実施期間と合わせて教育支援センター掲示板に掲示し、学生に周知した。今後も学生からの意見を精査することにより、設定した質問では見えてこない授業方法に関する問題点の把握、改善を図る。

公開授業は、「ルーブリック評価」をテーマに設定して行った。公開授業検討会では昨年同様公開授業の1コマだけを振り返るのではなく、授業担当者からそれぞれの授業概要の説明、ルーブリック評価についてどのように取り入れているかについて報告、意見交換を行った。

以下、①～③に学修成果に関する調査・公開授業及び公開授業検討会・FD研修会の実施期間と参加者を記す。

①学生・教員による学修成果に関する調査

【学生による学修成果に関する調査】

実施期間 前期：7月6日(月)～7月17日(金) 149科目で実施
(延べ科目数 193 複数開講を含む)
後期：11月23日(月)～12月4日(金) 134科目で実施
(延べ科目数 148 複数開講を含む)

【教員による学修成果に関する調査】

実施期間 前期：7月6日(月)～7月17日(金) 149科目 61名回答
(専任教員 27名、非常勤講師 34名)
後期：11月23日(月)～12月4日(金) 134科目 55名回答
(専任教員 25名、非常勤講師 30名)

②公開授業及び公開授業検討会

【前期】

- ・公開授業日：7月6日(月)、7月8日(水)、7月9日(木)
- ・参観者数：専任教員16名 非常勤講師1名 職員9名 評議員2名 計28名
- ・参観科目：専任教員担当 3科目
- ・公開授業検討会：7月31日(金) 16：00～17：30 18名参加

【後期】

- ・公開授業日：12月1日(火)、12月4日(金)
- ・参観者数：専任教員7名 非常勤講師1名 職員5名 計13名
- ・参観科目：専任教員担当 2科目
- ・公開授業検討会：1月8日(金) 16：30～17：30 16名参加

公開授業及び公開授業検討会の在り方について、現在の方法では実施できる公開授業が限られてしまう事、公開授業検討会が授業日から日程があいてしまい、検討する場ではなく報告をする場になってしまっている事から、今後の公開授業及び公開授業検討会の実施方法を見直し、次年度より実施していく。

③FD研修会

- a 情報メディアセンター運営委員会、SD委員会と合同で開催した。

令和2年12月15日(火) 16：30～17：00

テーマ：「情報セキュリティの現状と課題」

講師：川崎敬二氏 (情報メディアセンターアドバイザー)

場所：232講義室及びオンデマンド開催

参加者：専任教員24名、職員21名 計45名参加

- b IR推進委員会と合同開催

令和3年3月18日(木)～4月6日(火) オンデマンド開催

テーマ「データサイエンス」の動向

講師：中田奈月氏 (情報メディアセンター運営委員会)

参加者：専任教員 15 名、職員 14 名 計 29 名参加

④遠隔授業に関する調査の実施

4 月から 6 月まで実施された遠隔授業について、学生に対し Google フォームを活用して調査を実施した。

実施期間：令和 2 年 6 月 26（金）～7 月 3 日（金）

回答数：150 件

調査結果について、第 12 回教授会（令和 2 年 11 月 12 日）で報告し、自由記述データについては AD 上で閲覧できるようにした。メールでのやり取りに多くの不安があった事がわかった。また、自由記述からは「自分のペースで授業を受けることができる点は良かった」という意見が多く見られた。

⑤情報メディアセンター運営委員会、SD 委員会との合同会議の実施

情報メディアセンター運営委員会、SD 委員会との 3 委員会合同会議を実施し、ICT 推進計画の進め方について話し合った。

第 1 回 9 月 28 日（月）、第 2 回 12 月 24 日（木）

令和 3 年度からのクロームブック導入及びペーパーレス化に向けての話し合いを行った。

(ウ) SD 委員会の取り組み

①SD 委員会の活動

・活動目標の明確化

令和 2 年度始めから、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言が発出され、さらには奈良県知事から 1,000 平方メートルを超える大学は休業を要請されたことなどから、学校は休業となり、授業は遠隔授業にて行い、教職員は極力テレワークにて校務を行わざるを得なかった。

こうしたことから、事務改善や効率化を図り推進することがミッションである SD 委員会は、毎月定期的に委員会を開催したうえで対面による検討を行うのではなく、感染防止に配慮しつつ効率的な委員会活動を行うため、ZOOM 等を活用した遠隔可能な委員会の開催を併用した。

ICT を活用した遠隔授業を行っていることから、SD 活動を「ICT 推進による事務改善・効率化」とすることを令和 2 年度の具体的目標とし、さらに個別具体の取り組みとして「ICT 活用したペーパーレス化」を目指し取り組むこととした。

実施にあたっては、SD 委員会だけで行うのではなく「情報メディア運営委員会」や「FD 推進委員会」と共同して取り組むこととし、具体的実施対象として「教授会におけるペーパーレス化」を目指し、その成果を全学的に拡大定着することとした。令和 3 年 2 月の教授会から試行実施を経て、令和 3 年度の教授会から原則ペーパーレス化を本格実施することとしている。これにより教授会の審議案件ごとに提出していた紙による資料各 50 部の提出が不要となり、データによる提出となったことにより、さらなる情報の有効活用が可能となった。

②SD 研修会の開催

令和 2 年度の具体的目標が、「ICT 推進による事務改善・効率化」、「ペーパーレス化」としたことから、具体的推進のために、下記の通り研修会を実施した。

a 令和 2 年 9 月 1 日（火）9：30～10：00

場 所：1 号館小会議室

内 容：ZOOM 機能の活用について（1）

講 師：中島 幸大氏（入試・広報センター）

持ち物：パソコン、スマートフォン、Chromebook 等の通信機器

備 考：参加申し込み不要、入退室自由

b 令和 2 年 9 月 11 日（金）9：40～

場 所：1 号館小会議室

内 容：ZOOM 機能の活用について（2）

講 師：中島 幸大氏（入試・広報センター）

持ち物：パソコン、スマートフォン、Chromebook 等の通信機器

備考：参加申し込み不要、入退室自由

c 令和2年12月15日（火）16：30～17：00

場所：2号館232講義室

講演題：「情報セキュリティの現状と課題」

講師：川崎 敬二氏（情報メディアセンターアドバイザー）

（3）情報メディアセンターの運営

（ア）遠隔授業対応

- ・本年度は、新型コロナウイルス感染症の対策の観点から、政府及び文部科学省の指導のもと急遽、遠隔授業の実施に向け取り組んだ。
- ・具体的には、情報メディアセンターとして、授業遠隔化の成立要件を整理し、教員から学生への課題提供方法として、クラウド型サーバーのドロップボックス、Gドライブの運用を提案し実施した。（新規）
- ・また、遠隔授業の実施期間中、遠隔授業、受講環境が整っていない学生に対し、学修場所を提供すると共に、211教室にノートパソコンを10台設置し、事前予約による教室での貸出し運用を実施した。（新規）
- ・課題として、新型コロナウイルス感染症の急な拡大により、その対応を求められることとなったため、遠隔授業については事前の十分な検討がなされないまま、学生・教員に事前の説明があまりできない段階でのスタートとなり、また、試行錯誤の途中段階で、緊急事態宣言が解除されたことを受けて、面接授業への切り換えが行われたことから、今後もし遠隔授業を実施する場合にはルールの再検討が必要。（課題）

（イ）Google Workspace for Education(旧名称 G Suite for Education)導入

- ・文部科学省が提唱するBYOD、平成29年から運用しているレンタルサーバーによる電子メールシステムへの移行、Google Classroom、フォーム等のサービス導入を図り、それらサービスの基礎となるGoogle Workspace for Educationの導入を実施した。また、更に本件に関する規程を整備した。

継続（令和元年度～）

- ・Googleサービスの課題として、YouTube、Sites、Blogger等、外部のインターネットと直接接続できるサービスについてルール化が必要と考え、令和3年3月11日（木）の第22回教授会で、規程を改正し、対応している。しかしながら今後更に、学生、教職員、非常勤講師、卒業生などの各階層での仕様について運用段階で検討しながら、仕様内容を決定、サービスへの反映が必要。（課題）

（ウ）Chromebookの新入生必携化

- ・令和3年4月の新入生に向け、Chromebookの導入を推進するよう取り組み、学生が個人でChromebookを購入する体制を構築した。（新規）
- ・依然長引くコロナ禍を踏まえ、今後の本格的なリモートによる遠隔授業を考えた場合、自宅から授業に参加できる体制の構築が必要。（課題）
- ・実際の運用を考えた場合、盗難、紛失、故障、事故などの物理的な問題のほか、充電場所、印刷はどうするのかなどの運用上のルールや対応策を検討して行く必要がある。（課題）

（エ）学生用情報システムの整備

- ・現在、学内に学生用のWindowsパソコンを107台設置しているが、令和2年2月頃から、学生用PCにスタートメニューが出ないとの不具合が発生。これを受け、導入先のリコージャパン㈱の調査の結果、Microsoft社によるWindows10のバージョンアップ(1809対応)時に本学のPCの設定では対応できないことが判明した。これを受け632、633教室のパソコン(合計62台)については、再インストールが必要との結論に至り、5月にリコージャパン㈱による作業を実施した。 継続（平成29年度～）

(オ) 無線 LAN の再構築

- ・学内の情報機器を接続する無線 LAN のネットワーク環境について、令和 3 年 4 月からの Chromebook 必携化もあり、再構築が必要で、令和元年度に学内設置の 14 か所アクセスポイント(以下「AP」という。)の内、7 か所のリプレースを行い、引き続き追加対応が必要と思われる個所が 4 か所(1 号館 1 階、2 号館 3 階、3 号館 1 階、4 号館 1 階)について、AP を 4 台追加した。同時に 3 号館 1 階法人事務室の AP を廊下天井に移設工事を実施した。 継続(令和元年度～)
- ・また、その間、インターネットの契約については、「ハヤブサ」へのステップアップを実施しギガ単位への速度向上を図った。
- ・しかしながら、Chromebook の授業での運用を考えた場合、合計 4 台(1 号館 2 階、3 階、6 号館 2 階、3 階)の増設及び同時接続台数を一定に制限するなどの運用面の課題が出て来ている。また、体育館についても AP の追加が必要と考える。(課題)

(カ) ICT 計画の取り組み

- ・現在の ICT(Information and Communication Technology)計画に関する学内の取組みの見直しをした。具体的には令和 2 年度年次計画として、
 - a Google Workspace for Education 導入
 - b 学生情報基盤システムの再構築および規程の見直し
 - c 教室、学習室等機能改善のためのマルチメディア化の整備
 - d 全学生のノートパソコン必携制度の導入
 - e 奈良佐保短期大学における学内システムの整備
 - f さらに業務の効率化・適正化の推進(f)の一環として、2 月度の教授会から Google Classroom を使ったデータ配信を行いペーパーレス会議の取り組みをスタートさせたが、どのテーマも緒についたところで今後のフォロー・推進が必要。(課題)

(キ) その他の取組み

- ①文部科学省の遠隔授業の補助金交付に向けた対応。ICT 計画策定
- ②GAKUEN/UNIPA saho navi のバージョンアップ対応
- ③(社)私立大学情報教育協会のアンケート対応、文部科学省の学生経費に係る調査票作成
- ④情報セキュリティに関する研修会
- ⑤Google Classroom に関する研修会

(4) IR 推進室の運営

(ア) 各部署からの収集したデータの活用

教育成果の可視化、入学生数の確保等が最重要課題である。今年度は短期大学基準協会の「短期大学生調査」について全学を対象として実施し、その結果をデータで入手した。全国の短期大学との比較で本学の強み、弱みを確認することができた。

(イ) 私立大学等改革総合支援事業補助金の獲得

委員会では 8 月 28 日(木)及び 9 月 16 日(水)に委員会を開催し、私立大学等改革総合支援事業の調査項目について確認し、項目ごとに各部署への振り分けを行い、部署ごとで到達目標を定め計画を立てた。

(ウ) 大学コンソーシアム京都、リアセック主催する 2020 年度 IR フォーラム参加報告

テーマ「変革する大学！学修成果の可視化や、学生支援のための戦略的組織改革の実践 ～IR データを活用した教育改善や学生満足度 100%に向けた取組～」で報告された他大学での IR 活用の取組について委員会で共有し、今後の IR 活動について検討した。

(5) 防災対策・環境

(ア) 施設設備の視点からみた維持・管理

①危険予知シート・気がかりシート

危険箇所の早期発見をするための本シートの提出は、なかった。

構内巡回から気づいた点として、2号館3階のタイルが剥がれ、つまづく可能性があることから、2月に廊下と講義室の張り替えを実施した。

②施設等に愛称を使用した掲示

ビオトープの入口に廃材を利用して「自然広場 夢の丘SAHO」と彫刻した木製看板を設置した。

③学習環境改善のためのワックスがけ

令和2年度は、教室のワックスがけが実施できなかった。

ワックスがけをするためには、机や椅子の移動・剥離・乾燥・ワックスがけ・乾燥の工程が必要であり、連続して3日間を要する。今年度、連続して3日間の空きがある教室がなかったため実施できなかった。

④冬期の構内環境の改善

冬期は校舎周辺が暗く、寂しさを感じるため、学生が帰る時、少しでもほっこりしてほしいという思いから、玄関にハロウィン・クリスマスや正月の装飾を施し、LED電飾も施した。

(イ) 地域と共にある大学の視点から見た取り組み

①地域防災避難訓練

平成30年度から「安全で安心なまちづくり」を推進するため、地域住民参加型の地域防災避難訓練を実施してきた。本学3回目の取り組みで、本学の専門性を活かした避難所体験を計画したが、令和2年度は新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため中止した。

②花いっぱい運動

「花のあるまちづくり」を推進するため、学内農園で草花の種まきから栽培して、地域に草花苗を配布した。

(ボランティア学生が各家庭を訪問し、草花苗を無料配布)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
夏	マリーゴールド 800ポット	マリーゴールド 1800ポット	ケイトウ 600ポット
冬	ハボタン 200株	ハボタン 400株	ハボタン 100株
参加学生数 延べ人数	33名	30名	20名
備考	大量配布 護国神社・和楽園・ 生駒幼稚園等	大量配布 護国神社・和楽園・生駒幼 稚園・河内長野幼稚園・実 習先保育所等	大量配布 生駒幼稚園・護国神社・和楽園 学内大型花壇にケイトウとハボタン を幾何学模様で植栽

※学内大型花壇にハボタンを植栽したが、鹿による食害を受けてしまった。

③ドクターヘリのランデブーポイントに指定

ランデブーポイントの指定に伴い、消防署からドクターヘリの着陸要請が通知された際の事務系職員の役割分担を決めた。(※ランデブーポイントとは、ドクターヘリと救急車が合流する場所をいい、ドクターヘリは原則として、あらかじめ設定したランデブーポイントに着陸する。)

(ウ) 学内景観の視点から見た維持・管理

①ビオトープ周辺

樹木を低く、笹や雑草も早期に刈り払い、眺望のいいレストランの名にふさわしい景観にする。草文字「SAHO」の維持管理に努める。自走式草払機の購入により、効率よく管理できた。

②庭木剪定

正門周辺から遊歩道に沿った樹木を低めに剪定し、清潔感のある広大な敷地に見えるように維持した。

(松・サザンカ・クチナシ・ツツジ・サツキ等)

道路と校地の境界に植栽された樹木は、低めに管理し、地域住民が見て清潔感があり親しみを感じる大学に見えるよう維持した。(シラカシ)

学内には自然に生えた樹木が多く、その樹木が大きくなりすぎているため、年次進行で伐採もしくは徐々に小さく切り詰めた。(ピラカンサ・カリン等)

中庭の柳伐採跡地に樹脂製の擬木ブロックを使って花壇3基を製作した。

広報ボランティアに加えて、令和2年度から地域こども学科の自然と遊びフィールドの学内農園班学生が、園庭管理の演習の一環で学内樹木の剪定を実施している。

③本学バス停からの入口周辺

令和元年度、小山にホワイトクローバーを植栽した。春から秋にかけてはホワイトクローバーの小山であったが、冬期のイノシシによる掘り起こし被害を受け、雑草の山と化してしまった。そのため、令和2年度、植栽計画を小山から大型花壇に変えて夏はケイトウ、冬はハボタンを植栽した。

④旧焼却炉周辺の竹や雑木の伐採

雑木3本を伐採し、竹を間引きして正常な株間にした。今後も年次進行で間引き明晰を拡大していく。

(エ) 学内農園の視点から見た維持・管理

①学内農園の栽培計画

食物栄養コースが調理実習に使用する食材(葉菜類・果菜類・根菜類)を延べ60畝を利用して栽培した。調理実習の食材以上に収穫できた場合は、学生レストランに無償で提供した。

地域こども学科自然と遊びフィールドがトマト・ピーマン・サツマイモ・スイカ・ラッカセイ・ヒョウタン・ヘチマ等を延べ20畝を利用して栽培した。収穫物は、焼き芋体験やヒョウタンランタンやヘチマたわしに利用した。学生があまり目にする機会のないバナナやサトウキビを栽培し、観察できるようにした。令和2年度は、学内農園がイノシシやアライグマの獣害を受けた。その防止のため、ネットフェンスの補強を行った。また、奈良市からワナを借りてしかけた。残念ながら捕獲できなかった。

②学内農園の地力向上

元肥は本委員会では準備して、地力向上に努めた。学科の個別栽培に必要な消耗品(種子・追肥)は、学科の費用で対応することとした。有機質肥料を年次進行で投入したい。

③天候に左右されにくい授業展開の整備

次年度、天候に左右されず授業展開ができ、旬をはずした栽培ができるビニールハウスを設置した。

④小農具の整備

自走式草払機を整備した。

⑤耕耘・除草等の管理

現有の耕耘機は小型であるため、耕耘深度が浅いため、複数回耕耘して耕耘深度を確保する必要がある。また、ロータリー幅が短いため効率が悪い。空き時間を利用して耕耘するには難しい状況である。小型乗用トラクターの予算要求をする。

草払機や除草剤を組み合わせ、年間を通して雑草の管理ができた。

⑥農園拡張工事

農園と体育館の間の土地が湿地であるため、良質の残土を無料で提供してくれる業者等を探し、造成している。現状以上に土を入れるためには擁壁工事が必要である。擁壁工事の予算要求をする。

(オ) 緊急時の教職員及び学生の安否確認の視点から見た訓練

安否確認メールの返信率向上

教職員・学生に対して、年2回、安否確認メールの返信訓練を実施している。従来、サホナビで送信していたが、今年度は、新型コロナウイルスの関係から遠隔授業で活用されたグーグルフォームを使って安否確認を行った。

あらゆる機会に安否確認メール返信訓練の重要性を周知して返信率を高めるため、教授会で周知のための協力依頼をした。

(カ) 学内避難訓練の視点から見た訓練

新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、通常のグラウンドへの避難訓練は中止した。
しかし、非常時の備えとして、教室でのシェイクアウト訓練と紙上避難訓練を実施した。

6. 社会や地域への貢献に関する事業

(1) 地域・国際センターの運営

(ア) 職業実践知の接点から見た地域連携

①公開講座 夢の丘 SAHO セミナー 知の扉 継続 (平成 15 年度～)

8月6日(木)～1月30日(土)の期間に9回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症防止のため中止となった。

	タイトル・日時	募集定員	講師名	参加者数
1	社会保障制度を学ぶ 8月6日(木) 10:00～12:00	20名	高城 大	一名
2	避難所運営ゲームにチャレンジ! 8月8日(土) 10:00～12:00	20名	木田 一芳	一名
3	新薬師寺 高畑界限 9月12日(土) 10:00～12:00	20名	小倉 つき子	一名
4	働く人のキャリアデザイン 9月18日(金) 13:00～15:00	20名	戸田 信聡	一名
5	歩いて撮って調べよう ―世界一の研究者になるために― 10月31日(土) 10:00～14:00	12組	中田 奈月	一名
6	世界遺産 春日山原始林を歩く 愛でる 考える 11月7日(土) 10:00～14:00	15名	前迫 ゆり	一名
7	ワンポイント 介護技術 ～立ち上がり～ 11月21日(土) 10:00～12:00	15名	武田 千幸	一名
8	もしもの時のために・・・みんなで作ろう!防災食! 1月23日(土) 10:00～13:00	24名	飯田 晃朝	一名
9	冬野菜とだしを味わう 1月30日(土) 10:00～13:00	24名	島村 知歩	一名

②開放授業 継続 (平成 20 年度～)

前期、後期共に2回開講予定であったが、新型コロナウイルス感染症防止のため中止。

③履修証明プログラムの実施 継続 (平成 21 年度～)

令和2年度は履修証明プログラム①「ピアヘルパー養成プログラム」②「奈良を学ぶプログラム」③「認定ベビーシッター養成プログラム」④「介護職員初任者研修」を募集予定であったが、新型コロナウイルス感染症防止のため中止

④教育訓練給付制度講座指定 継続 (平成 30 年度～)

a 介護職員初任者研修課程を地域に還元し、キャリアアップ、専門性の向上、再就職、資格取得のための学習の場を提供する。平成30年度より従来から実施している介護職員初任者研修課程を教育訓練給付制度講座の指定を受けている。令和2年度は、その更新時期にあたり、手続きを行い、引き続き指定を受けることができた。

b 対象者：一名(募集中止)

(イ) 高等学校との接点から見た地域連携

- a 出張講義 継続（平成 24 年度～）
本学が発行している出張講義一覧からの申し込み
- b 体験授業 継続（平成 24 年～）
高等学校（進学者の仲介によるもの含む）からの申し込み
- c 連携高校 継続（平成 21 年度～）
県立：奈良朱雀高校、高円高校、二階堂高校、磯城野高校、榛生昇陽高校
私立：奈良文化高校、あべの翔学高校、興國高校

	学校名		内容	担当
1	奈良文化高等学校	連携校	出張講義・実習	食物栄養コース 地域こども学科
2	奈良県立高円高等学校	連携校	出張講義	地域こども学科
3	奈良県立大宇陀高等学校		出張講義	地域こども学科
4	奈良県立磯城野高等学校	連携校	機械入浴の講義・実習	生活福祉コース
5	奈良県立二階堂高等学校	連携校	研究発表の指導講評	食物栄養コース ビジネスキャリアコース

(ウ) 自治体等との接点から見た地域連携

- ①シニアワークプログラム 継続（平成 20 年度～）
従前より奈良県シルバー人材センター協議会の研修会と連動して実施してきた。令和 2 年度は奈良県シルバー人材センター協議会が、本学開催の研修会を実施しなかった。
- ②奈良県教育委員会の教職員研修講座 継続（平成 24 年度～）
新型コロナウイルス感染症防止のため中止した。
- ③なら子育て大学の委託講座 継続（平成 24 年度～）
新型コロナウイルス感染症防止のため中止した。
奈良県 3 市町村から依頼があり、講演を行った。
- ④企業との商品開発 継続（平成 30 年度～）
募集をしたが、応募者はいなかった。
- ⑤各種団体との協働 継続（平成 30 年度～）
新型コロナウイルス感染症防止のため中止した。

(エ) 国際交流の接点から見た国際連携

- ①交換留学生 継続（平成 22 年度～）
閩南師範大学：半年間、大連大学：1 年間
新型コロナウイルス感染症拡大防止により、中国が入国拒否対象国に指定されたため、令和 2 年度は交換留学生は入国できなかった。
令和 2 年度も出入国在留管理局から「適正校」の認定を受けた。
- ②海外からの訪問団・外国人留学生の問い合わせ
 - a 令和 2 年度入試で入学した外国人留学生数（国内居住者も含む）

別科	国籍	人数 (名)	本科	国籍	人数 (名)
	ベトナム	10		ベトナム	13

b 令和2年度外国人留学生の在籍状況

	年次 (回生)	国 籍	人数 (名)
本科	2	ベトナム	1
		バングラデシュ	2

	年次 (回生)	国 籍	人数 (名)
本科	1	ベトナム	13

合計 16 名

	国 籍	人 数 (名)
別科	ベトナム	10
	バングラデシュ	2

合計 12 名

c 海外からの訪問団

海外からの訪問依頼はなかった。

(オ) 地域住民の接点から見た地域連携

入試・広報センターと防災・環境委員会と協働で実施している。

①花いっぱい運動 継続（平成30年度～）

平成30年度より開始した花いっぱい運動は、「花のあるまちづくり」を推進するため、学内農園で草花の種まきから栽培して、地域に草花苗を配布した。（年2回配布：ケイトウとハボタン）大変好評であった。

ケイトウ 600ポット

ハボタン 100株

学内の大型花壇に夏：ケイトウ、冬：ハボタンを幾何学模様栽植した。また、玄関にハボタンを植え付けた大型植木鉢を据え付けた。

②地域防災避難訓練 継続（平成30年度～）

「安全で安心なまちづくり」を推進するため、地域住民参加型の地域防災避難訓練を実施した。今年で3回目の取り組みである。本学の専門性を活かした避難所体験を設定した。毎年、ステップアップしながら継続実施する計画である。このような経験を積み重ねることで、防災意識を持った学生を地域に輩出した。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症防止のため開催を中止した。

地域防災避難訓練がきっかけとなり、今年度、本学がドクターヘリのランデブーポイントに指定された。

③地域人材による専門性の拡幅化 継続（令和元年度～）

おもちゃドクターや防災士や工芸作家等を招聘して、学科を問わず学生に付加価値をつける特別セミナーの開設に努めた。新型コロナウイルス感染症感染防止のため、ゲストティーチャーの招聘を中止した。

(カ) 卒業生・在学生による専門職人材バンク[夢の丘SAHO人材バンク] 継続（令和元年度～）

専門的な知識・技術・様々な経験を有する卒業生・学生の人材バンクを創設し、その登録者と地域住民（高校生・社会人）をつなぎ、本学が新たな地域づくりに貢献する。

新型コロナウイルス感染症防止のため、人材バンク登録の周知が難しかった。

2. 附属生駒幼稚園

※令和2年度も昨年度末に引き続き、コロナウイルス感染拡大防止対策のため休園になることはなかったが、あらゆる場面に行事の縮小等多くの制約の中で実施することを余儀なくされた。

以下の実績報告書はそんな中での教職員一丸となって取り組んだ実践である。

保育に関する事業

- 1) ひとりひとりが、自分で動き出せるように 急がせないで ゆっくりゆっくり待つ保育。
 - ・「原因は子ども？先生？」と常に反省をし、なぜこの子はと考えることを重ねるうちに、子ども側に立って考えられる保育が実感できた。
 - ・ 基本的な生活習慣の実態把握と充実・・・ひとりひとりの実態に即した年齢別、発達段階別 指導の徹底
 - ・ 給食指導の在り方の再確認・・・マナー 清潔 準備片づけを学ばせる工夫
そのための環境整備・・・手作りエプロン 給食ワゴンの利用
 - ・ my 週案の作成の徹底(自己管理)・・・学年ごとの連携が、指導計画を自分のものとし、ひとりひとりの様子等、今まで以上に大切にした。
 - ・ 個人記録の充実と園生活における状況記録(発達、病気、怪我、出来事、他)・・・自分のクラスでの保護者との連携は十分取れてきているが、その分 教員共有意識が弱くなっているように感じられ、そのために全体の場で
それぞれの学級の情報を交換し合うことを実践した。朝の会で報告。
 - ・ 家庭との連絡状況・・・連絡はこまめにとれるようになり、最後の確認、何のための連絡かを、意識して話すことを心掛けた。子どもを真ん中に置いて考える基本が保護者にも、伝わり始めた。

- 2) より良い環境づくり。生活経験が縮小されるコロナ渦の状況の中だからこそ、以下のことに重点を置いて細やかに配慮をして実践した。
 - ・ 子どもたちにとって、小さな命の営みに触れる小動物の飼育を大切に考え、各クラス 1 匹ずつ相談して飼い、なまえをつけて世話をする。(ただし担任中心での世話、子どもたちには無理のないよう衛生面に十分気を付けて行う。
各クラスの小動物飼育計画・・・ じゅうしまつ かめ ハムスター ザリガニ かたつむり モルモット等
園全体・・・うさぎ2羽(ミニ・サウザンド) かわむつ ザリガニ ハムスター2匹
 - ・ 体を十分動かせる環境整備
園庭北法部分(土手)・・・修繕がおいつかなかったため、思い切って緩やかな坂を利用してクライミング壁(傾斜約30度)設置
 - ・ 季節感や、日本の節目の行事を大切に伝える工夫を丁寧に行う、
五月の節句(五月人形飾り) プール開き 9月の節句(お月見飾り) 12月クリスマス(ツリー飾り) 正月飾り(お鏡餅) 三月の節句(お雛飾り)等の正しい行い方を学んだ。
 - ・ 花のある清潔な保育室・保育棟をなお一層、心がける・・・各クラス及びトイレ・手洗い場等、園全体掃除の徹底。

- 3) 豊かな経験のための行事とその意味の確認をしながら時間を大切に丁寧に行った。
 - ・ 誕生会・・・蜜を避けるため、各担当が工夫を凝らし各クラスごとに行い、担任以外の教員たちで、そのクラスを回り手ごたえのある独自の展開をした。
 - ・ 遠足・・・春 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、近くの公園へ散歩に行く。
秋 年少(けいはんな公園) 年中(鉄道博物館) 年長(天理みかん狩り)
 - ・ 各月誕生会・こどもの日の集い・七夕の集い・お雛祭りの集い・・・クラスごとで行うことの良さを生かし各クラスそれぞれに工夫して行った。

- ・運動会・・・・・・・・・・ご近所のご協力をいただき、学年ごとに日を変えて場所も園庭にして縮小及び時間短縮にて行った。
- ・作品展・・・・・・・・・・人数制限と共に場所や時間も縮小し、お楽しみイベントも控えての実施となった。
- ・お泊まり保育・・・・・・・・子供たちにとって貴重な体験である（親から離れて過ごす5歳児の体験）恒例のお泊り保育、コロナのこの状態の時期を逃せばいけなくなる可能性があり唯一の思い出になるかもしれないと考え、保護者にアンケートを実施し、全員の家庭より実施希望の回答を得た。その中に多く、万全の備えの元なら希望するとあり、また、兄弟の経験から、ずっと楽しみにしながら、大きくなったとの声も多数いただき、実施に踏み切った。宿泊先である〔信貴山観光ホテル〕とも綿密に打ち合わせを重ね、ホテル内で完全に隔離状態にし、最小限度のホテルの従業員とのみの接触にとどめていただいた。
- ・お別れ遠足・・・・・・・・・・大型観光バスの利用のこともあったが、行先の「宇治プラネタリウム」の協力を得て、その日1日当園のみの参加となった。ゆっくり楽しみ、お弁当は、園庭で食べた。
- ・生活発表会
- ・クリスマス会・・・・・・・・・・サンタさんに各クラスを回っていただきクラスごとのクリスマス会を展開した。
- ・避難訓練・・・・・・・・・・運動場へ逃げるルート確認を重点的に行い、広く距離をとって実施した。
- ・消防署見学・人形劇鑑賞・マラソン大会・コンサート・お別れ会・チューリップ会・卒園児いっしょコンサート等は、止む無く中止とした。

4) 特別活動（外部講師起用）の精選と充実

- ・外部講師教室の見直しと精選をさらに進めた。
 - ・年長・・・・・・・・茶道教室(年3回)・・・・・・・・12月、子供の家の解体に伴い、座敷の代わりに、急遽、新館2F きりんルームに畳と床をしつらえ、茶道体験を継続した。最終日の感謝のお茶会は、本部役員さんの協力を得て、保護者は時間をずらしての参加とした。
 - ・和太鼓指導(年3回)・体育指導(月1回)　・サッカー(年間8回)
 - ・年中・・・・・・・・体育指導(月1回)　・年少・・・・・・・・体育指導(月1回)
- 外での活動であるため、ソーシャルディスタンスに気を付けて、園庭を大きく広く使い、予定通り実施した
- ・各学年共通・・・英語ステーション(月平均8回)

子ども達が自由感のある中で自然に、自発的に英語（英語を話す人）と接する環境、また、幼児期だからこそ「英語＝単語」ではなく「英語＝人と話すためのもの」と捉えて英語教育をスタートさせたいという願いから子ども達が楽しみながら、自分と異なる言葉を話す人に興味を示し、自らその中に入っていきける「英語ステーション」の利用、朗読体験等英語に触れる機会の工夫を行ってきた。6年目を迎え、その成果は非常に顕著に表れた。しかし、ECCのネイティブ講師は、年度の途中も入れ替わりが激しく、その都度、趣旨を伝えていくが、加えてECCの職員も、目まぐるしく替わるため、「教えなければ」の色が濃くなり、楽しむ仕掛けはほとんどが担任の仕事となっている現状である。講師の位置を考え直す時期と考え、2年度は個人ネイティブを採用、週3回（月火水）子どもたちと共に生活をしてネイティブ講師の存在が子どもたちにとって、ごく自然なものとなっていくことを期待する。

運営に関する事業

1) 安全対策について

- ・送迎のドライブスルーの際の安全管理の徹底・・・・・・・・・・昨年度よりトランシーバーを無線機に変え、台数も増やせたことで、スムーズに連絡が取れ、時間短縮にもなっている。

- ・遊具点検の強化・・・安全点検票作成・・・学期に1回、職員全員で点検を行い、総合遊具のロープ、木材、網の交換をした。
- ・北側法面の土がずり落ち始めていたので、ロックライミング仕様（緩やか）にして止めた。
- ・災害時のバス位置確認のためにも、連絡方法として上掲の無線採用のおかげで、バスとの連絡もスムーズにこなせている。

2) 園内研修の実施

- ・毎朝の時間と共に、実施したことの反省を必ず時間を置かず、全体に送り文章化して提出。
保育内容の充実に向けて、子どもの見方、幼児期の発達の姿、教師の役割、幼稚園の役割等、基本の学びに取り組み、同時に年間指導計画の見直しも、学年ごとに任せて考えられた。
- ・教員の研修時間の確保
毎日の子どもの姿を共有し、今日を考えるための研修を毎朝10分～20分、打ち合わせと共に行った。
- ・my 週案の作成と見直し自己管理に切り替える
今日の子どもたちの生活から明日の保育を考え、明日、経験させてやりたいこと、してやりたいことが見えてきたら、そのために準備することを明確に！と、毎日のすること、せずにいられないことを段階を追って実践し、その都度自分の思いを文章にしてまとめる。そうすることによって例外なく自分の保育が見えてくる。更に子どもの身体と心を真ん中に考えていくことで、今、しなければならないことが見えてくる・・・書かねばならぬ週案から、書きたい週案に進化し続けていることが見える。
- ・教員研修の充実・保育内容の精選
コロナ渦の中、休園や家庭や子どもたちとの連携や、楽しめる毎日のための取り組みのための計画及び準備等に時間が足りないほど取られてしまったのが現状である。また、幼稚園が通常通りに開園されると、今度はコロナウイルス感染拡大防止のための、行事の取り方が問われ、2階3階と同じ行事をしなければならなくなり、更に確保が出来なくなった。しかし、そろって机上で研修する時間は確保できなかったが、それ以上に様々な方面に配慮し進める ZOOM や、YouTube、加えて複数回行う様々な行事は、大変有意義な経験となり、大きな成果を上げる研修となった。

3) 各研修会参加は、コロナ対策のため、すべてが中止となった。

- ・奈良県「幼児教育研究会」 ・奈良県特別支援教育研修会 ・生駒市指定研究会 ・生駒市保幼小中交流会
- ・奈良私立幼稚園実技研修会 ・奈良県私立幼稚園連合会教員研修大会 ・奈良女子大付属幼稚園研究発表会
- ・子どもの生活習慣向上のための指導者研修会・奈良西養護学校夏期教育相談会 ・奈良県人権研修会
- ・幼稚園教育要領改訂実践研修会 ・その他

その他の事業

1) 預かり保育の実施と充実

- ・子どもたちの安定を大切にする人的・物的環境を考え、預かり保育担当教員の配置を継続。
更に、預かり保育室「こじかのおへや」の充実、保育室と切り離して、家庭に近い環境を整え、緊張をほぐす事を大切にする。保育活動にならぬよう注意をして行う。
- ・2年度は保育終了後18:00まで延長した。無償化が始まり、預かり保育も、働くママのためのものと変化していつている。家庭での遊び場が少ないための、楽しい経験としての色はほとんどなくなっていつている。更にコロナ感染拡大防止対策の中においては様々な理由により、どうしても預けなければならない幼児のみとして続けた。

2) 家庭（保護者）との連携

- ・担任と連絡を密にし、十分に伝え、十分に話を聞く・・・3回線に増やした電話、手紙、家庭訪問等。

- ・引き続き、園だよりに「園長の小さな窓から」を設けて、幼児期の教育の緩やかな啓発を図った。
- ・保護者との懇談会 月、1回 子育てトークサロン「きりん」は、希望の声が多い中、中止とした。

3) 地域との連携・交流

- ・地域の行事もほとんど中止

夏祭りに鹿の台地域年長児和太鼓披露・中央公園特設会場・春・夏年2回の地域清掃運動に教員参加等中止

- ・年3回推進委員会参加・・・・・・・・・・保育園・小学校・中学校協力
- ・鹿ノ台いきいきホール「キッズルーム」協力園参加も、中止
フェスティバル オープニングセレモニー年中児太鼓披露及び出品中止
- ・鹿ノ台小学校「芝生の運動場でお弁当を食べよう会」中止
- ・鹿ノ台佐保保育園とお楽しみ合同保育2回中止
- ・資源回収の協力・・・・・・・・・・廃品一括計算幼稚園割り当て分 3630円収入
アルミ缶 一人一缶運動…どれだけ集めても収入としては同じだが、地域への感謝を込めて行う。
- ・農園見学及び体験・・・・・・・・山田農園 チューリップ等花の鑑賞・・・・・・・・クラスごとの鑑賞
- ・芋ほり・しいたけ狩り体験・・・・・・・・・・地域団体E C O K Aグループ中止。

4) 生駒市連携協力体制強化

- ・生駒市「赤ちゃんの駅」継続。
- ・生駒市私立公立幼稚園保育園認定こども園合同園長会会議及び研修会に参加一部欠席
- ・生駒市消防署 幼年クラブ員として、春の防火週間啓発行事参加中止

5) 奈良佐保短期大学との連携

- ・教育実習・・・・・・・・6月・実習第2段階 11月 見学実習 ボランティア実習
- ・地域こども学科フィールド授業参加・体育指導は、広い体育館のため、実施していただいたが、最終参観の回は中止

6) 施設・設備等の修理・設置・充実

- ・子供の家解体跡地駐車場にする ・本館2F年中手洗い場水漏れ修理 ・北斜面法部分土滑り修理クライミング設置
- ・給食を、自園調理へと準備を始めたが、補助金の関係上「施設型給付を受ける幼稚園」認定後、次年度へと延期した。
- ・園庭桜の木の枝が道路におおきくせり出し、折れた老木の枝が通行人に危害を与える危険があるため、はみだし部分選定

7) 各補助金・助成金の積極的申請

- ・私立学校教育改革(預かり保育) 推進特別経費補助金
- ・奈良県幼児教育の質の向上の為の緊急環境整備事業」補助金
- ・奈良県私立学校経常費補助金(学校提案型支援加算・・・英語ステーション) コロナ予算確保のため中止
- ・心身障害児教育振興費補助金
- ・奈良県教育経常費補助金「政策推進加算」・・・・・・・・2年度、初めて「奈良県産材使用」の教材等の加算をいただく。
- ・生駒市幼年消防クラブ助成金・・・・・・・・コロナのため中止

8) 募集について

- ・入園説明会内容の工夫に加え、ホームページの充実に着手。
- ・コロナ感染拡大防止のため、多数の制約の中で説明会を行う。

その他

- 1) 特別支援を要する園児については、各発達応援施設との連携を強める必要性を痛切に感じ、効果も実感できた。
- 2) 衛生管理の見直し
 - ・コロナ感染拡大防止のためすべてにおいて消毒の徹底をした。
保護者の協力により、消毒液の無制限使用が可能となる。
- 3) 各進学小学校との連携・・・出来る限りの参加継続であるが、2年度に限り、1日入学説明会と参観、
新1年生幼保小連絡会・入学予定者懇談会は、状況により不参加（ただし、電話等で連絡する。）
- 4) 消防関係　　・消防設備立入検査・・・令和2年度実施せず
- 5) 引き続き、4月当初よりバス業務は委託を継続、徹底して安全を確保した。

※2年度末、3月31日に、かねてより申請していた「施設型給付を受ける幼稚園」の認定通知をいただく。

これにより、奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園は名前、状況等そのまま、生駒市からも給付を受けることとなる。

※コロナ感染拡大防止の中にある子どもたちへの影響は、計り知れないものがあると考えますが、その中には、成長するいいこともあり、また、不安の中で暮らすしんどさが形を変えて影響として出てくるかもしれない。こんな時こそ、子どもたちをとりまく大人たちが、真心を込めて接することを心掛け、一つひとつの表情や、つぶやきに寄り添っていかなければならない。そのことを教職員一同、助け合い、影響し合って取り組みたい。

3. 認定こども園附属河内長野幼稚園

新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年4月7日に緊急事態宣言が発出（5月6日まで）され、4月8日に予定していた一学期始業式が5月7日に延期、4月10日に予定していた入園式が5月8日に延期となったが、緊急事態宣言が延長されたため、さらに延期。（5月21日に解除）全員そろっての幼稚園再開は6月1日となった。この間、幼稚園は1号こどもは臨時休園、家庭保育のお願い。2号こどもは保護者がエッセンシャルワーカーとして就労されている場合に限り、登園可能とするよう河内長野市から要請があった。この期間中に登園した子どもは一日2名～6名であった。緊急事態宣言解除後、5月22日から4回に分けて分散登園（午前中の約2時間。年長児2回、年中児1回、年少児親子登園1回）を実施。6月1日に入園式・始業式を行った。

大阪は感染者数が多く、河内長野市は都市部から離れているとはいえ、ご家族の中に大阪市内に通勤通学の方も多く、解除後も一年を通じて、これまで行ってきた日々の保育や行事は難しく内容の見直し、変更を余儀なくされた。

○見方や考え方を変えてできる限り子どもの育ちを妨げることのないよう配慮したつもりではあるが、実際は難しくできない部分が多くあった。

保育に関する事業

- (1) 「あそび」はこころとからだを育てる。子どもは教えられて育つのではなく自ら学び育つものであるという考えを基に、目先の知識の詰め込みや教え込みではなく子どもたちの自然でたくましい育ちを助けるよう、たっぷりとことん遊びこめる環境を整え援助をしたかったが限界があった。
- (2) 親子で「眠育」は中止
- (3) 絵画製作（月1回）や体育教室（月2回）、英語遊び（月2回年中・長のみ）の活動も専門の講師の下、ますます充実し講演会や参観などを通して保護者の深い理解を得た。（9月から再開）

運営に関する事業

- (1) 安全対策について
 - ・引き続き万が一、不審者の外部からの侵入などの不測の事態に備えて教職員の訓練を行い、行事の際には保護者の協力を得て園内のパトロールを実施していた。
 - ・遊具の点検は年に2回業者に依頼。園の教員では学期毎に点検を行った。
- (2) AEDの操作方法や手順、心肺蘇生法などの確認。
- (3) 教員のスキルアップ
 - (ア) 外部より専門の講師を招いて絵画製作の研修を行い、クラス毎に研究発表をし、意見の交換や評価をして保育の質の向上を図った。
 - (イ) 外部より専門の先生を招いて体育・運動あそび、ゲームの研修をした。
 - (ウ) 大阪府私立幼稚園連盟、河内長野市私立幼稚園連絡協議会の教員研修は中止
- (4) 9月5日大阪大谷大学あべのハルカスキャンパスに於いて大阪私立幼稚園連盟南大阪支部の就職フェアに参加（5月16日から延期）
- (5) コロナ対策について
 - 園としてどのような対策をとるかを随時、保護者に手紙やアプリで知らせた。

その他の事業

- (1) 預かり保育
 - ・月～金曜日の早朝預かり（7：30～8：00）の実施。
 - ・土曜日預かりの早朝預かり（8：00～9：00）の実施。
- (2) 2号こどもの保育の充実
 - ・1号こども降園後の2号こどもの心的援助と環境の整備。
- (3) 一学期始業式が2か月遅れたため、一学期終業式を7月17日から31日に変更

- (4) 子育て支援活動推進事業の実施 (9月から実施)
- ・昨年度に続き、満2歳～就園までの子どもとお母さんを対象に未就園「たんぼぼ」の実施を週1回行った。遊びの場としてだけでなく、子どもやお母さんの友達作り、子育ての悩みや相談などお母さんの話を聴く場としても広く開放した。
- (5) ・月に1回、年齢に関係なく地域の未就園児を対象に約1時間、園庭を開放した。新たに同じ時間に絵本コーナーを開放し、卒園児保護者のボランティアによる絵本の読み聞かせや貸し出しの「さほっこ文庫」を開設した。「さほっこ文庫」は天候に左右されることなく実施できるので、利用しやすいと好評を得ている。
- ・2歳の一時的預かり保育の実施。(定員6名。1歳10ヶ月頃からも状況に応じて可能とした。)(「園庭開放」は9月から実施。「さほっこ文庫」令和2年度は中止)
- (6) 毎月行っている参観は一年を通じて中止。
- (7) P T A (佐保の会) 活動もほとんど行えず、行事毎に募っている保護者ボランティアの募集もなかった。
- (8) 年長児の鍵盤ハーモニカは一年を通じて中止。
- (9) 春(長野公園)と秋(和歌山県立自然博物館)の園外保育は中止。近くの公園に歩いて行った。
- (10) 6月30日、7月1日に予定していた年長児の宿泊保育は中止。内容を変えて7月31日終業式後にデイキャンプを行った。
- (11) さほっこなつまつりは園外に向けての呼びかけはなし。飲食やゲーム、ワークショップはなし。内容を大きく変えて在園児のみで園内だけで行った。
- (12) プール遊びは中止。水遊び中心で行った。
- (13) 夏休みの15日間を自由登園とし、「わんぱく」と名付けて無料で縦割りの活動 (令和2年度は中止)
- (14) 市内9園が所属する河内長野私立幼稚園連絡協議会開催の幼稚園まつり。ラブリールホールにて人形劇を観賞。 (令和2年度は中止)
- (15) 10月 加賀田フェスティバルに職員が参加し絵本の読み聞かせ。 (令和2年度は中止)
- (16) 10月 加賀田ふれあい交流会 (令和2年度は中止)
- (17) 10月26日運動会。これまでの土曜や日曜から平日開催とし、時短のためプログラムの見直し。観覧の人数制限、検温、消毒、マスク着用等、コロナ対策をとり実施。
- (18) 11月21日作品展。これまで市の市民交流センターのイベントホールを借りて開催してきたが、作品の搬入、展示、搬出に保護者ボランティアが必要不可欠であるため、園で時間をずらして各クラスごとに開催。
- (19) 12月21日移動動物園。
- (20) クリスマス会、お別れパーティーの人形劇鑑賞 (令和2年度は中止)
- (21) おもちつき (令和2年度は中止)
- (22) 2月 市内の小中学校と幼稚園の絵画活動の発表の場として開催の「キッズアート展」 (令和2年度は中止)
- (23) 2月20日生活発表会時短のためプログラムの見直し、時間をずらして各クラスごとに開催。総入れ替え制。観客席の間隔を大きくとる、観覧の人数制限、検温、消毒、マスク着用等、コロナ対策をとり実施。
- (24) 3月15日卒園式 在園児、短大や地域の方等の来賓なし。参加者は卒園児保護者2名に限定。時短のため内容を見直して実施した。
- (25) 保護者対象のフラワーアレンジメント (令和2年度は中止)
- (26) 保育終了後に空き保育室を利用したの課外活動を、引き続き体育教室、ピアノ教室、英語遊びを実施。 (9月から再開)
- (27) 幼稚園評価の実施
保護者アンケートを行ない、その結果を施設関係者評価として学園の評価委員5名の先生方へお願いした。
(5月13日現在、評価委員に依頼中)

※中止になったものはコロナ感染拡大防止対策のためであり、大阪府や河内長野市からの要請を受けて、市内の小

中学校、幼稚園、認定こども園で連携を取り話し合った上で決定しました。
※対面での園長会、支部会を行わず全てオンラインで行われました。
市内の園長会は毎月、支部会は約二か月に一回行い、情報共有しました。

4. 附属倉敷幼稚園

保育に関する事業

(ア) 稲の栽培、花・野菜の栽培、小動物の世話等を通して、自然との関わりの中で命の尊さについて知らせると共に、毎月行われる誕生会でも「生んでくださって有難う」「育ててくださって有難う」の言葉を園児から保護者に伝えるように知らせていった。

また、「ひとを大切に、ものを大切に」、ひいては命を大切に、そして全てに感謝の気持ちを抱くように伝えていった。

(イ) 「心と心のキャッチボール」を合言葉に円滑な望ましい人間関係の育成に努めた。

(ウ) 体育遊び教室（月2回）、モンテッソーリ活動（週1回）、リトミック活動（月2回）、英語遊び活動（月1回）等、非常勤講師の指導の下での遊びも充実させた。

特に、モンテッソーリ活動を充実させることで、園児の自主性を確立させ、集中力を養うことに貢献した。

(エ) 年中児を対象に、「歯科から見た食育～お口の機能、育っていますか？～」をテーマに園歯科医により、月1回ずつ実際の食べ物を口にしながら体験活動の指導を受けた。しかし回数は例年より少なくなった。

(オ) 例年だと、実際に本物に触れ、体験を通していろいろなことを知り学ぶための数多くの行事や活動に取り組むところだったが、コロナ禍のため、かなりの制約を受けた。

運営に関する事業

教員のスキルアップ

(ア) 岡山県私立幼稚園連盟と倉敷市私立幼稚園協会に所属し、講演・実践・グループ協議等を中心に多くの研修・研究を進める予定であったが、殆んど中止となった。

(イ) 全日私幼連から出されている教員の資質向上のための俯瞰図にのっとり、県私幼連・市私幼協・県及び市主催の各種研修会に参加する予定であったが、これらもコロナ拡大防止のため中止となった。

(ウ) 例年は8月末に、中国地区私立幼稚園教員研修会（令和2年度は広島大会）が開催され、講演会・研究発表に参加する予定であったが中止となった。

(エ) 7月に、岡山県私幼連主催による令和2年度中堅教員全体研修、翌年1月に全体教員研修を行う予定であったが中止となった。

(オ) 6月の県私幼連の総会・研修会、11月の県私幼連開催の公開保育も中止で、翌年3月の市私幼協総会も新型コロナウイルス蔓延を防ぐため中止となり、資料に目を通すことになった。

(カ) 特別支援を必要とする年長児に対し療育施設の先生の訪問を受け就学に向けての接続がスムーズになされるように努めた。

(キ) 毎日の終礼を中心にその日の保育実践や子どもの様子について園内研修を進め、各教員のコミュニケーションを密にした。

その他の事業

(1) 預かり保育の実施

預かり保育（毎日、保育終了後～17:00まで）を継続して行い、長期休業（夏休み・冬休み・春休み）中の預かり保育（8:30～17:00）も行い、保護者のニーズに添った。

(2) 子育て支援活動推進事業の実施

県より支援を受け、未就園児の幼児クラブを月1回継続して行い、「子育て支援活動推進事業」に取り組んでいる。

(3) ボランティア組織

P. T. A 役員以外に、今年度も保護者からボランティアを募り、各種園行事への支援をお願いするところだったが殆んどが中止となり残念であった。しかし1学期末の夕涼み会は予定通り行い、子ども達も大満足であった。

コロナ禍でも屋外ということで、8月末にP. T. A 会員により、園内はもとより園外の団地の駐車場・通学路を中心に大掃除を行ったところ、ほぼ全員の保護者、特に父親の積極的な参加を得て環境の整備ができた。

(4) 倉敷市私幼協主催第41回くらしきキンダーフェスティバル

5月に開催の予定だった倉敷市私幼協主催第41回くらしきキンダーフェスティバルは、コロナ禍のため密を避けるため中止となった。市内17園の5歳児900名以上の全園児とその保護者・教職員が集い、皆で楽しく半日を過ごし、かけっこや他園とのふれあい競技の他に、広い球場に色とりどりのパラバルーンの花火を咲かせる予定であったが、参加賞のタオルのみを配布した。

(5) 年長児のお泊り保育

令和2年度8月末に国立吉備少年自然の家にて、過去何十年と続いている年長児のお泊り保育を予定していたが中止となり、代わってサマースクールという名の下、朝から夕方までプール遊び、ゲーム、お化け屋敷、パラバルーン他の遊びを楽しみ、夕食は全員弁当を持ち帰り、各々の家で同じ弁当を食べて一日を楽しく終えた。

(6) 実習等の受け入れ

6月と秋に地元の大学生の実習を受け入れた。

11月には奈良佐保短期大学より学生を受け入れ、共に研修や遊びを楽しみ予定であったが中止となり、残念であった。

(7) 音楽の会

秋に親子音楽会を開く予定であったが、今回は保護者の招待は無しで全園児で弦楽五重奏の演奏を聴き、感性の育ちの一助とした。

(8) 人形劇鑑賞

6月に地元の短大生（20名）が演じる迫力のある人形劇を鑑賞し、子ども達は喜んで楽しく参加した。

(9) 老人ホーム訪問

例年、春・秋と年2回、特別養護老人ホームに年長児が訪問し、手遊び・歌等、共に遊ぶことで老人から「命の大切さ・尊さ」を知ると共に、自分は他人の役に立っているという自己有用感、自己肯定感を体験するところであったが、今年度は中止で、貴重な体験をすることができず、誠に残念であった。

(10) その他

季節の行事の他、時計屋・消防署・新幹線・月を観る会、オープンスクールで使用する材料のためにスーパーマーケットに行く等の園外社会見学に参加することで社会に触れ、その一員としての自覚が生まれるように促す体験をする予定であったが、全て中止になった。取りわけ、地元大原美術館への年5回行う見学では「世界の宝物」に接し、感性を育てると共に、見学マナーを身に付けることができなかったが、美術館さんから、12月に1回のみ招待を受け、世界の宝物に触れることができ、貴重な体験をした。

(11) 避難のけいこ

月1回の避難のけいこを通して、火事・地震・不審者から身を守る訓練を積み重ねており、幼児とは思えないぐらい素早く避難できた。とりわけ9月には、倉敷警察署OBの2名の方が不審者への対応の指導に来園してくださり、細かく注意事項を聞くことができた。

(12) お茶会他

2月の年長児対象のお茶会では、佐保会岡山県支部会員を講師に招き開催の予定であったが中止となった。他に年2回、運動会や卒業式の前の準備、秋のバザーへの献金・献品等、ボランティアとして佐保会員には常にお世話になっている。

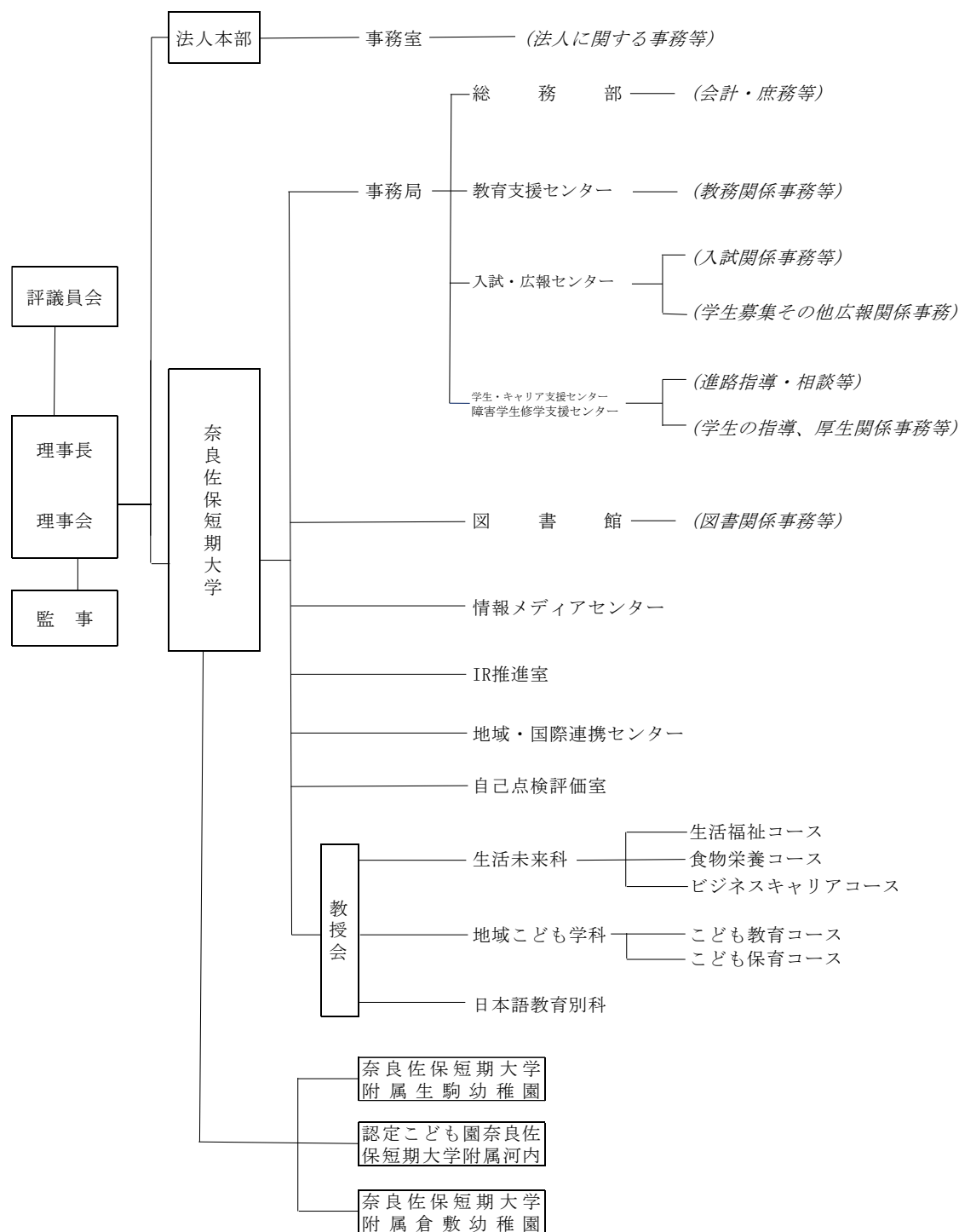
(13) PTA 会員有志によるコーラス部

PTA 会員有志によるコーラス部「さほ×さほ smile」(部員約40名)の美しい歌声を、PTA 総会、誕生会等で聴いた。練習もマスク着用で重ね、本園の遊戯室を貸している。
例年1月にある倉敷市私幼協PTA音楽交流会は今回は中止で、病院や老人ホームの慰問も中止となった。

(14) その他

コロナ禍でも密を避けるため、クラスを2分して保育参観を行ったり、運動会・生活発表会も参加者を制限し、座席を指定する等、いろいろと工夫して行事を行った。
毎年、毎月行う行事もコロナまん延拡大防止策を取りながら行い、子ども達にできるだけ多くの体験ができるように留意した。
年度末のお別れ会でも生ものは無くし、火を通すからと敢えてカレーを作り、子ども達と全員で会食をした。一つでも楽しい思い出を作って年長児を卒業させたいという願いの下、PTA役員もバザーに代わるものとして、常とは別に大々的な廃品回収の日を2回設けて実施するなど職員、保護者、皆で力と知恵を出し合っ
て考えてきた1年であった。この経験を是非、次年度へと繋げていきたいと考えている。

6. 運営・組織機構



(※ 斜体文字は主たる業務・分掌をしめす)